

# Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2007.04 No.36



*Anima*  
Mundí \*

(Vazquez-Yoshigaki project)

*PIRI*  
THOMAS



KIP HANRAHAN  
DEEP RUMBA  
MILTON CARDONA  
Will & Rainbow

<http://www.jazztoday.jp/>



## 距離に負けない「親和力」が響きあう。

### 待望登場、Anima Mundiのセッション作第一弾！

text by JazzToday 編集部

芳垣安洋が旗をふる GLAMOROUS レーベルに集う多彩な顔ぶれ、片やフェルナンド・カブサッキの人脉の広がりから「アルゼンチン音響派」と通称される面々——地球の裏側同士の母国で生まれ、音楽に魅せられ、やがてプロ活動を始めたそれぞれの音楽家たちが近年、折をみては再会し、セッションし、その奇跡の結晶をわれわれに提供してくれる。もはや双方の表現者たちにとって“もどかしい案件”は遠距離共感ではないのかとも思う。つまり一日強を要する両国間の移動時間だけが難儀な課題であり、それでも会えば「旧友」のように互いの琴線を響かせ、ふだんは

気軽に共演できないぶん即興にして緊密、耽美的にして濃縮、さほどの合議なくとも豊富な音楽の交感に酔いしれ、その貴重な刻の収穫がわれわれに御裾分けされている。そんな気さえる。一昨年の6月に山本精一と勝井祐二の二人がアルゼンチン入りして行なわれた Buenos Aires Session の模様は既に『Chichipio』『IZUMI』という2枚の秀作アルバムとして発売されているが、二日間に渡る録音を終えたのち、誰ともなく口にした「もう一人の誰かが俯瞰しつつ統率しているような、ある種の心地よさ」はその場に居合わせた全員の想いでもあっただろうし、この一連の日

亜混交セッションのライブに触れる度に感じる特有の相性を表わしている感慨だ。

その時のアルゼンチン組はモノ・フォントナ抜き(=理由は飛行機嫌い)で昨年の初夏に来日、東京以外でも素晴らしいステージで聴衆を魅了したが、サンチャゴ・ヴァスケスの飛び道具(?)である種別不明の木に関しては「随分とシンプルなセット(舞台美術)やなあ…」と開演前に勘違いした観客が多かったらしい。ここに掲載したカットは Buenos Aires Session 時のサンチャゴ持参の「箱の中身」であるが、スタジオ内ではドラムセットの横にあったピアノも駆使した事実を付記しておこ



う。また、世界各国の打楽器に精通し、奏者、作曲家、研究者、講師、コンダクター…等々、じつに多彩な顔を有するサンチャゴだが、アルゼンチンの同時代音楽を掲載するミニコミ誌『club del disco』の主宰者でもあり、筆者も一冊本人から献呈を受けた。風貌は役者然とした万年好青年という感じの人だ。

さて、芳垣安洋自身が「数年来、私を刺激し続けてくれた(存在)」とサンチャゴを評し、「地球の反対にある二つの街を繋ぐ音のパイプラインを作るプロジェクト」として打楽器奏者同士がタッグを組んだ Anima Mundi とはいったい、どんな作品を編み出すのだろうか。早い時期からその構想だけは耳にしていた筆者としては、山本/勝井/カブサッキという弦楽器トリオとの相違を大いに愉しみとしながら完成を待ちわびていたのだが…。

ヴァスケス=芳垣の「世界のどこにもないような音世界を作ってみよう」という果敢な試みに合流したのは、ヴィンセント・アトミクスでもおなじみの岡部洋一と高良久美子、内橋和久と GOMA の客演組、そしてヴァスケスとの交流も長いアレハンドロ・フラノフという、いずれも個性的で選別の納得度と未聴時点での期待度が高まる面々ばかりである。

GLOMORUS の新作が出る度に想うのはそれが「歩行」であれ、乗車による「走行」であれ、どこかへ連れて行ってくれるという移動感覚が濃く、その速度の如何を問わず「移りゆく景色(の本来不可視な諸々の事象や現象)」を脳裡に呼び起こし、気づけば再び日常の土を踏んでいるという催眠効果にも似た音響の妙である。記憶を頼りに書き出せば、ヴィンセント・アトミクスの諸作には「突如丘の上に見られては砂塵のように去っていたマジック・リアリズムのような楽隊」性を感じ、オルケ

スタ・ナッジ! ナッジ! には「TDL のイッツ・ア・スモール・ワールド」を連想させるめくるめくグルーヴ感」を覚え、Kabusacki Tokyo Session の『KIRIE』は「世界一周弾丸列車」の車輪の軋み音までが幻聴され、地球の裏側で展開された Buenos Aires Session では「船窓」から見える水平線の揺らぎに覚醒させられた。では、Anima Mundi によるこの “Santiago Session vol.1” は如何に…。

唸るならば雨蛙でも鈴虫の鳴き声でもいい、あるいは闇を揺らす正体不明の自然現象でも構わない。何か一瞬にして「音はすれども姿は視えず」というものに身体がつかまれる(囲まれるという恐怖感ではなく)、1曲めはそういう感触。そこから先はどれが何というタイトルの曲だとか、今はどの辺りで何が視えるとかの地名や風景への執着心もそっと脱がされて(強制ではなく)、たまに両岸で揺れる蜃気楼が思い描かれる印象。「船」というよりも「舟」に揺られている感じに近いが、そう思って安寧の河下りに浸っていると突如スコールのようなグルーヴの嵐に急襲されてかなり慌てるのだが…シタールが爪弾かれると「インド上空か!?’と拙い連想をしてしまうのは聴き手側の音色に対する呪縛だろう。唸るならば雲海をさ迷っている印象もあり、地上感と浮遊感の境界線が気持ちいいほど曖昧だ。その意味では芳垣の狙う「世界のどこにもない音世界」への実験的試みは成功していると思うし、何よりも特筆すべきは(決して政治的メッセージとしてではなく) Kabusacki Tokyo Session から始まった一連の日亜音楽同盟が「9.11以降の非米交流」を見事に結晶化させ、共演を重ねる度に深化を遂げている点だろう。彼らは距離のもどかしさを止揚している!

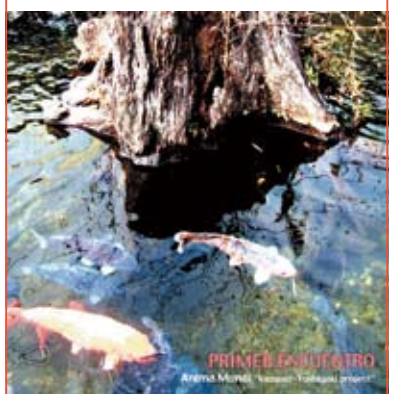
## Anima Mundi

Vazquez-Yoshigaki project



### PRIMER ENCUENTRO

Anima Mundi (Vazquez-Yoshigaki project)



GLAMOROUS  
EWGL-0010 ¥2,500(税込)  
2007/3/14 RELEASE

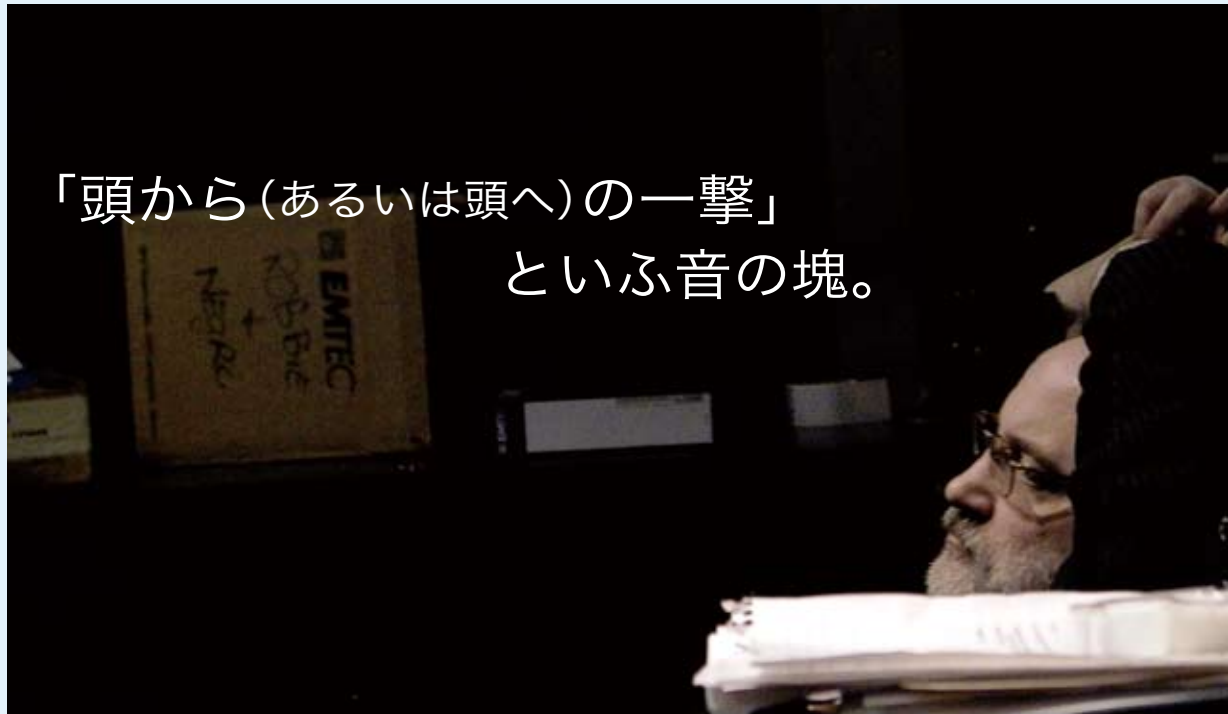
ブエノス・アイレスと東京、遠く離れた二つの都市を結ぶ奇跡の音楽!! ヴァスケス=芳垣のグループが新たな音を求めて始動する。

- ① TAL VEZ LLUEVA it may rain
- ② RECONSTRUCCIÓN rebuilding
- ③ EL TRANCE DEL ALMUERZO trance of having lunch
- ④ EN FOCO focused
- ⑤ EN JULIANA finely chopped / in Juliana
- ⑥ SALIDA DE CAMIONES trucks exit
- ⑦ BAILE EN EL PLAYÓN party-dance on the parking lot
- ⑧ SIETE HOJAS FLOTANDO seven floating leaves
- ⑨ EN UNA GOTTA QUE GIRA inside a rolling drop

#### ■ パーソネル

内橋和久 (guitar,daxophone) on 1,2,4,8	高良久美子 (vibraphone,antiquecymbals, bass marimba,slitdrum,engelhart, shaker,kalimba,tube horn,etc.) on all trucks
GOMA (didjeridoo) on 3,7,9	芳垣安洋 (drums,surdo,tambourin,talking drum,cymbals,bells,tinkingbowl, berimbau,kalimba,caxixi,shaker, toys,voice,etc.) on all trucks
Alejandro Franov (piano,key,sitar,woodflute,voice,d ance) on 1,2,3,4,5,6,7,8	岡部洋一 (conga,bougarbou,tinbau, cajon,shaker,triangl,caxixi,cymbals, talking drum, beans,etc.) on 1,2,3,4,5,6,7,8.
	Santiago Vazquez (cajon,tabla,bombo,tambourin, kalimba,berimbau,gongs,tinking bowls,slit drum,caxixi,toys,horn, plant,voice,etc.) on all trucks

# 「頭から(あるいは頭へ)の一撃」といふ音の塊。



## アメリカン・クラヴエの新作と再発に想う

text by Anri Suetsugu (本誌編集長)

コ、コイツ(ら)はいったい全体、ナニモノ!? どういふ出自から産まれた音楽なんだ…キップ・ハンラハンの問題作『A Thousand Nights and a Night(1-Red Night)』を初めて聴いた日の耳の興奮をいまだ鮮明に憶えている。Out thereといふ音楽誌を立ち上げる準備中の1999年、初夏のコトだった。手元にあるeweのカatalogで追認すると「1998/06/21 RELEASE」とあるから、凡そ一年遅れの驚愕的邂逅だったわけである。彼(ら)の存在を教えてくれたのは渋谷にあるJazz Room『MARY JANE』の店主、福島哲雄氏だった。「これから(こんな時代に)

JAZZ誌を始めるの!? それはそれは随分とマア、既得なコトで(笑)。ならば、このレーベルを取り上げないテはないよ」、その一言がamerican clavéへの扉を開けるきっかけとなった。指を折ればもう、片方手では足りない歳月が流れた。主宰者のキップが1954年生まれのじぶんと同じ歳であるコト(といふ事実よりも肝心なのはアティチュードへの共感を覚えるかどうかだが)、若き日の彼がJCOAやゴダールの周辺で棲息していたコト(10代後半に彼らの存在や作品や活動や言説をリアルタイムで知ったコトの意義は長くなるので省くが)、今やお宝的12

インチ盤『DNA』がアメリカン・クラヴエからリリースされていたコト(いったいどのレーベルと勘違いしてじぶんは積年所蔵してきたのか!?)、キップがテオ・マセロに多大な影響を受けてきたコト…等々の履歴や事実や人脈が徐々に判明してくるにつれ、各アルバムに結集している多彩な顔ぶれの一見脈路のなさそうな混交ぶりの(謎)もそれなりに解けてきた。この4月から待望のリマスタリング&高音質仕様で随時再発がスタートするアメリカ・クラヴエの諸作、その第一弾3作品の一枚にも選ばれている『COUP DE TÊTE』は同門初心者の当時、最も

## american clavé



### EVERY CHILD IS BORN A POET / Piri Thomas

ewac-1033 ¥3,000 (tax in) 2007年4月 Release

フリージャズとルンバの、ポエトリー・リーディングのストリートからのラディカルな一撃。ディーブルンバの前夜、すでにラテンはディーブだった。

- ① Like Tight (at Juvie) ② Bullets or Butterflies / Every Child Is Born a Poet ③ Born Anew at Each A. M. ④ ¡Oye Familia! ⑤ What Better Place? ⑥ Softly, Puerto Rican, You're Not Alone ⑦ Mom and Pop Had Filled My Eyes With the Wondrous City ⑧ I Speak For Myself (Sermon From the Ghetto excerpt) ⑨ Vaya! (Sounds from a Street Kid excerpt) ⑩ Mindtrances ⑪ Freedom of Expressions ⑫ Getting From Nothing (Sounds from a Street Kid excerpt) ⑬ Pride on Bended Knees ⑭ Momma Never Lost Her Sense Of Beauty ⑮ Those Who Is and Those Who Ain't (Sounds from a Street

- Kid excerpt)(incorporating excerpt from Deep Summer) ⑯ Armed Robbery on West 8th Street ⑰ Puerto Rican Identity / I'm Tough / El Miedo ⑱ Distant Shore Dreams / The Cruellest Prison of All ⑲ Hollywood in Harlem ⑳ Every Child Is Born a Poet ㉑ The Hard Stuff (Sounds from a Street Kid excerpt) ㉒ El Vejigante ㉓ Doubt Kills ㉔ Dignity ㉕ No Vuelvo ㉖ A Dialogue with Society a/k/a Sermon from the Ghetto (incorporating excerpt from Unobtainable Days, Unobtainable Nights) ㉗ Pretty as Thee (Eyes of My Heart excerpt)

くり返し視聴した忘れ難く、且ついまだに銀盤滑走回数の多いキップの初リーダーアルバムだ。アート・リンゼイが弾き、アントン・フィアが叩き、ビル・ラズウェルが爪弾いている。ジェリー・ゴンザレスが叩き、チコ・フリーマンが吹き、カーラ・ブレイが弾いている…。「27年経って今、やっと全曲がラブソングだと気づいた。レコード作りを始めたとき24歳だったんだけど、そのときは性的興奮に支配されていた」。これは今回の再発に際し新たに添付されたインタビュー上のキップ発言だが、筆者も数年ぶりに訳詩を丁寧に咀嚼しなおして濃密な官能の詩情性と「権力からの孤立感」の相貌を改めて再発見した。

やはり再発第一弾の一枚、ディーブ・ルンバの『A CALM IN THE FIRE OF DANCES』については正直、今になってようやく「音楽そのもの」と真正面に向き合える作品ともいえる。それはもちろん個人的な感慨だし、彼らの伝聞や見聞にばかり耳を奪われて視聴を疎かにしてきたわけではないが、この数年間は主宰者のキップや双頭コンビのオラシオ＝ロビーを直接取材する機会にも少なからず恵まれ、そのナンとも奇天烈で痛快でシニカルにして冗談過剰で陽気なそれぞれの個性に煙をまかれてきたといふ想いも拭い難く、そのDEEPなRUMBAもどこか

“頭”で把握しようとする邪念が作用して“カラダ”で感じる素直さを疎かにしてきた面が否めない。この間、アメリカン・クラヴエとその周縁をより知る(知りたいが)ために可能な限りの文献や関連資料を集め、枝葉的な興味で「そうか、そうだったんだ!」と思わぬ拾いものにも出遭ったりして、さすがに若葉マークからタクシー運転手応募の資格(普通免許取得後3年以上)はあるほどの「クラヴエ通」には昇格したんだろうが、それを中級と呼ぶのであればたぶん、このディーブ・ルンバ作品が含有する今日性をより深く体感するコトが愉悦増量への要であるような気がしている。

とはいうものの、知らないコトが掘れば掘るほど出てくる、聴けば聴くほど興味が広がる、紐解けば紐解くほど知識の扉が開く、といふ年齢不問の興奮と好奇心はいつまでも持ち続けたい。できれば「レーベル単位」で程よい数の先鋭&注目アーティスト陣が集っており(玉石混交でハズしたくない)、閉じたり休眠中ではなく現在進行形のコンパクトな規模のレーベルで(今からでもコンプリート蒐集が可能な)、音楽だけにとどまらず聴く者の好奇心を自然と多方面に広げてくれるような音の塊(「情報」ではなく「作品」としての所有欲を刺激してくれるような)…何年待たされてもそんな条件を満

たしてくれる未知のレーベルと邂逅できた喜びは大きい。じぶんにとってアメリカン・クラヴエは“ラフ・トレード以来の衝撃”だったし、正直「サンテリア」なんて宗教的表現の形式があったコト自体、ミルトン・カルドナの『bembé』を聴くまで不勉強で知らなかったし、そのライナーノートも再録している東 琢磨著『ラテン・ミュージックという「力」』(音楽之友社)からはさまざまな見識を得たし、キップ(ら)の孤立感にも多少は近づけたと思う。そういう興味・知識欲・好奇心が増幅されていく過程の愉悦感、尽きない資料漁りの興奮と、謎に次ぐ謎の対象をつねに持っていたいといふ気持ちに老若男女の違いはないだろう。これから、それもリマスタリング&高音質でキップ軍団の音像群と「未知との遭遇」ができる人はある意味「幸せ」である。しかも、リイシュー3作品と同時に前作『original music for PIÑERO』(2002/09/21 RELEASE)以来待望の新作、ヒリ・トーマスの『EVERY CHILD IS BORN A POET』も店頭に並ぶ。残念ながら筆者もまだ、具体的な推薦評を綴れるほど噛み締める時間は締め切りまでに持てなかった。その新作評も含め、次号以降の連続企画「アメリカン・クラヴエ徹底解析」の執筆陣に筆を譲りたい。4月はオトナへの入学式!

### アメリカン・クラヴエ リイシュータイトル 第1弾

2007年4月、同時リリース! ニューヨーク・アンダーグラウンドの鬼才、キップ・ハンラハンが主宰するアメリカン・クラヴエ、遂に待望のリイシュー。オリジナル・アナログ・マスターからのリマスタリング、CD/SACDハイブリッド盤の高音質仕様。



### COUP DE TÊTE Kip Hanrahan

ewsac-1007 ¥3,000 (tax in)  
2007年4月 Release

キップ・ハンラハン、'81年衝撃のソロデビュー作が最新リマスタリングで甦る!

- ① WHATEVER I WANT ② AT THE MOMENT OF THE SERVE ③ THIS NIGHT COMES OUT OF BOTH OF US ④ INDIA SONG ⑤ A LOVER DIVIDES TIME(TO HEAR HOW IT SOUNDS) ⑥ NO ONE GETS TO TRANSCEND ANYTHING (NO ONE EXCEPT OIL COMPANY EXECUTIVES) ⑦ SHADOW TO SHADOW ⑧ sketch from TWO CUBAS ⑨ HEART ON MY SLEEVE

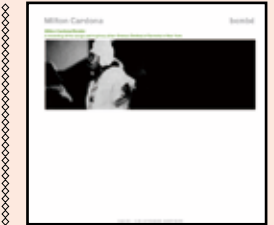


### A CALM IN THE FIRE OF DANCES Deep Rumba

ewsac-1030 ¥3,000 (tax in)  
2007年4月 Release

最新リマスタリングでさらに深化した「ディーブ・ルンバ」の音世界。空気を震わせるパーカッションの一撃!

- ① Cubana ② medley: Robby and Negro Opening TimePensamiento ③ bom bom bom bom ④ Prelude to Un Golpecito Na' Ma ⑤ Kip Quest ⑥ Quimbara 2000 ⑦ Charles and Andy discuss the Science of Voodoo and the Voodoo of Science ⑧ Beseme Mucho ⑨ Tradicion ⑩ Sugar and Cotton(Black Hands in White Labor) ⑪ Cantar Maravilloso ⑫ Giovannito ⑬ Arabian Nights ⑭ Solo Nino ⑮ Yambu de las Cocas ⑯ Work and Play(Real Life Dramas)



### bembé Milton Cardona

ewsac-1004 ¥3,000 (tax in)  
2007年4月 Release

“サンテリア”の司祭ミルトン・カルドナによるハンド・ドラムと祈り。溢れ出すリズムと響きの世界初ハイブリッド化。

- ① SALUTE TO ELEGUA ② ELEGUA ③ OGUN ④ OCHOSI ⑤ EBIOSO ⑥ BABALU AYE ⑦ OBATALA ⑧ CHANGO ⑨ YEMAYA ⑩ OCHUN ⑪ ODUDUA ⑫ ELEGUA(CLOSING)



# 彼が目の前で吹いている、 そんな想いがよぎる一枚。

text by JazzToday 編集部



**マイケル・ブレッカー**  
1949年3月29日、ペンシルヴァニア州フィラデルフィア生まれ。1969年にニューヨークに移ってから本格的にミュージシャンとして活動を開始し、73年からホレス・シルヴァーのバンドに参加。その後兄ランディ・ブレッカーと「ブレッカー・ブラザーズ」を結成。ジャズとファンクをミックスさせた音で音楽ファンを熱狂させた。その後も数多くのミュージシャンと共演しているが、87年以降はストリート・アヘッドな演奏を中心にキャリアを重ねている。近年は、2001年『ニアネス・オブ・ユー：ザ・バラード・ブック』、2002年『ハービー・ハンコック、ロイ・ハーグロブとの『ディレクションズ・イン・ミュージック』として最近作(2003年発売)『ワイルド・アングلز』とグラミー賞を3年連続受賞。

今年の一月半ば、マイケル・ブレッカー(享年57)の訃報に接していちばん初めに聴き直したのは、ジェームス・テイラーのアルバム『ワン・マン・ドッグ』(1972年)に収録された不朽の名曲〈ドント・レット・ミー・ビー・ロンリー・トゥナイト〉。次いで30年弱の年月を経て再び、主役とゲストの立場が入れ替わって吹き込んだマイケルの名盤『ニアネス・オブ・ユー：ザ・バラード・ブック』の中の同曲。そしてポール・サイモンのベスト盤から〈時の流れに〉を流し、デイヴィッド・サンボーンとマイケルの個性の違いが交互に堪能できる吉田美奈子の珠玉盤『LIGHT N UP』(1982年)の一連作を聴いて、個人的な追悼の一夜としたコトを今でも記憶している。斯様に良質なポップス、それも後世に語り継ぎたい名曲群の伴奏者として「脇役」に徹したマイケルの側面こそが、彼の不在、惜別の情感をよりリアル

に受け取らざるを得ない「偉業」なのである…。先日、タジマヤスタカがブレッカー・ブラザーズの肖像を描いた追悼表紙の本誌35号を挟んで、件の吉田美奈子さんと雑談した折、マイケルの人柄に関する証言を拝聴する機会に恵まれた。サンボーンとマイケルの参加が打診／承諾され、この良きライバル同士が打ち合わないために制作陣は両者のスタジオ入りの時間をずらして伝えたという。が、事件は現場で起きた。ナント、期せずして両者が揃って予定よりも早く現われて「御対面(笑)」、結果「ジャンケンで吹き込む順番を決めた」と、美奈子さん。つまり「お互い、相手がどんな演奏をするのか、事前に把握してから自分の演奏に臨みたかったんですよ(笑)」と、美奈子さんは述懐する。で、マイケルの人柄は？「お茶目と真摯が知的に同居している才人」お茶目な逸話は？「ボバイに出てくるウィンピーの『金



曜には返すからハンバーガー奢ってくれヨォ〜って物真似が凄く上手かったの。あとは、静かだからシリアスな顔してるんだろと思うと、超ヘンな顔をしてたりね(笑)。とにかく、愛らしい素敵な方でした、マイケルの遺影を眺めていると思わず笑みがこぼれてしまう秘話だ。

で、春の嵐が吹き荒れる昨晚、届いたばかりのマイケル・ブレッカー追悼盤である本作『ソング・フォー・ユー／Will & Rainbow』をくり返し鑑賞した。彼が不世出のジャズメンであったのは言うに及ばず、良質なポップスの伴奏者(伴走者)としても大貢献し、それらの名曲が生まれては流れる時代を生きてきた筆者がその脇役ぶりをもこよなく敬愛してきた事情は先ほど記した。が、本作の冒頭を飾る〈愛のためいき〉1曲だけを聴いても、改め

# MICHAEL BRECKER

て気づくのはマイケルの吹く音色自体が含有している「歌唱力」である。今回の追悼企画盤はSTUFFのほぼ全員が参加しているEast Windの隠れ名盤『クリスタル・グリーン』(1976年録音作品：現在廃盤)と、凡そ四半世紀を経て面子も新たに結集した豪華プロジェクト「ウィル・アンド・レイボー」名義の2作『オーヴァー・クリスタル・グリーン』『ハーモニー』という3枚からマイケル参加の楽曲ばかりをレーベル超えて編んだものだが、最後を締める〈アイル・フライ・アウェイ〉に彼の登場はなく、実兄ランディ・ブレッカーの参加楽曲が選ばれている。捉え方によっては意味深なジャケットの絵柄共々、「追悼」の情が再度立ちのぼってくる配列である。同時にわが家のCDラックからマイケル名義のアルバムや参加作品を引き出して、じぶん流の追悼盤を何枚か編んでみたくなる、そんな気持ちにくすぐる快作だろう。6曲目の〈トラブル・イン・マインド〉ではフィービー・スノウ(vo)の歌唱がフィーチャーされ、この一曲からも抜群の伴奏者ぶりを発揮するマイケルの才能が偲ばれる。そして胸中に浮かぶのは「いや、マイケルは死んでいない」、あるいは「彼は少し長めの休暇を

取ってどこかを旅しているだけなんだ…」という感情だ。もちろん彼はこの世にもういない。それは〈千の風になって〉が歌う世界に近い「気」の問題だろう。が、本作を何度も聴き返しても「彼が(目の前で)吹いている」という実感につつまれる。何よりも「音が生きている」からだ。不滅とか不死身とか不朽という語感とは微妙に違って、「同時代を生きる気分」が満載されている、それがマイケル・ブレッカー特有の個性的音色であると改めて気づく。もしかしたら今後も彼が遺した数々の音源にさまざまな切り口を加え、他のコンピ盤が幾つかリリースされるかもしれない。その先陣を切って企画された本作を聴いて想ったのは、1976年／2002年／2003年という録音日時の間をシャッフルして順不同に並べても何ら“時の隔たり”や“新旧交差”の違和感を覚えない事実である。それは享年57という惜しまれる生涯を、マイケルが「いま生きていること」の実感に徹して生き、音色に込め、仲間を愛した結果の、時空を超えた不変の響きゆえかかもしれない。わたしたちは惜しい人を失った。しかし、彼は「生きて」いる。

## ソング・フォー・ユー ウィル・アンド・レイボー

### マイケル・ブレッカー追悼盤 時空とレーベルを超えたコンピレーション・アルバム



VRCL-18003  
(Hybrid / CD & Super Audio CD) ¥2,415 (税込)  
2007/3/21 RELEASE

01. 愛のためいき (クリスタル・グリーン)
02. アピアラニス (オーヴァー・クリスタル・グリーン)
03. ホザーン (クリスタル・グリーン)
04. ワルツ・フォー・デビー (オーヴァー・クリスタル・グリーン)
05. ソング・フォー・ユー (オーヴァー・クリスタル・グリーン)
06. トラブル・イン・マインド (ハーモニー)
07. イスラエル (ハーモニー)
08. アイル・フライ・アウェイ (オーヴァー・クリスタル・グリーン)



## ハーモニー Will&Rainbow

Eighty-Eight's Label VRCL-18811 ¥2,835 (税込)  
■バーソネル  
ウィル・ブルウェア (p, Fender-Rhodes)  
ピーター・バンスタイン (g), マイケル・ブレッカー (ts)  
スティヴ・ガッド (ds), アンソニー・ジャクソン (b)  
フィリップ・セス (syn, Fender-Rhodes), フィービー・スノウ (vo)  
〈録音〉2003年



## オーヴァー・クリスタル・グリーン Will&Rainbow

Eighty-Eight's Label VRCL-18801 ¥2,835 (税込)  
■バーソネル  
ウィル・ブルウェア (p), ウィル・リー (b)  
スティヴ・ガッド (ds), ピーター・バンスタイン (g)  
ジョン・ワーキング (syn), マイケル・ブレッカー (ts)  
ランディ・ブレッカー (tp)  
※今回収録曲には不参加：ポプ・バーク (ts)  
〈録音〉2002年



## クリスタル・グリーン Rainbow ~featuring Will Boulware

East Wind Label (現在廃盤)  
■バーソネル  
マイケル・ブレッカー (ts), ウィル・ブルウェア (key)  
エリック・ゲイル, コーネル・デュブリー (g)  
コードン・エドワーズ (b), スティヴ・ガッド (ds)  
ラルフ・マクドナルド (perc)  
※今回収録曲には不参加：アーサー・ジェンキンス (key), クリス・ヒルズ (clavinoba)  
〈録音〉1976年



てな異常気象もナンノソノ、な画伯の「春」モノ特集。うん、春が来た!!



連載13

絵と文 タジマヤスタカ



ボーカリーズ ザ・マンハッタン・トランスファー

春ですな〜。春来たりなば〈ジョイ・スプリング〉ですよ。今月の表紙「ブラウン&ローチ」の名演で知られるブラウン一作のこの曲、ころころと転調しながらも滑らかに流れていくメロディー。色とりどりの花々がぼつ、ぼつと次々に咲いていくような感じでなんか心がウキウキします。その〈ジョイ・スプリング〉を例によってボーカリーズ、歌詞をつけてまんま歌っているのがマンハッタン・トランスファー。

いつもながらの名人芸でブラウンのソロも見事に歌い上げます。この人たつてほんととザ・エンターテイメント、アメリカンなショーってな雰囲気楽しいですよな〜。

マンハッタン・トランスファー (vo) ジョン・ヘンドリックス (vo) カウント・ベイシー楽団 他 1985年



スリー・ブラインド・マイズ ジャズ・メッセンジャーズ

スプリング繋がりという事で続けてこのアルバム。ライブ盤ですが、熱いながらも決して勢いで押し切るような事はなく、細かいところまで神経が行き届いて、よくこなれているなあ〜って感じがする1枚。そんな中で春のそよ風が頬を撫でます5曲目〈アップ・ジャンプ・スプリング〉。作曲はハバード。トランペットにつけたミュートから流れてくるメロディーにちょうちよが舞います。あのいかつい風貌からこんな爽やかな

で愛らしい曲が生まれるとは〜。…って失礼ですね、ゴメンよハバード。

フレディー・ハバード (tp) ウェイン・ショーター (ts) カーティス・フラー (tb) シガー・ウォルトン (p) ジミー・メリット (b) アート・ブレイキー (ds) 1962年



ブルー・スプリング ケニー・ドーハム

〈春のごとく〉、〈スプリング・イズ・ヒア〉などのスタンダードや春息吹く爽快オリジナル曲〈スプリング・キャンソ〉など、すべて春にちなんだ曲ばかりの1枚。このアルバムのドーハムはメロディーやタイムの取り方、ワンフレーズワンフレーズをととても大事にソロを組み立てている感じ。感情を込めた様々な語り口で詩を朗読しているような雰囲気。対するキャノンポー

ルは奔放な春風さん。『クワイエット・ケニー』でドーハムファンになった人が次に聴くべきアルバムはコレで。

ケニー・ドーハム (tp) キャノンポール・アダレイ (as) シガー・ウォルトン (p) ポール・チェンバース (b) ジミー・コブ (ds) 他 1959年



吉田：そう、それぞれの時代のラジオ番組のエア・チェックまでして全部分類・整理して、リスト化してサイトに載せているのを見て「そんなだったっけ?!」と改めて思う(笑)。だからオフィシャル・サイトを立ち上げる以前のものは、そういったサイトを御覧になって頂いたほうが情報は詳しいですよ。どこの誰のアルバムに参加したなんて、楽曲は憶えていたとしてもコーラスもやったかどうかまでは記憶が曖昧だったりするし。

JT：美奈子さん自身が驚いたサイトとかありますか？  
吉田：あつある！あのね、『ミナコマニア』という凄いいタイトルのサイト。  
JT：さながら「メードさん」みたいな名称ですね(笑)。  
吉田：ははは。富山県にお住まいの、須田さんという方がやっていたサイト。今もあるのかな？それと、広島にいらした西原さんという方のサイトは、プログレと私を並べて考えるみたいな内容で(笑)。そこもデータがもの凄くて半端じゃなかった。その両方のサイトに、膨大な情報が掲載されています。

JT：記録される側が読んだ際の、素直な感想はどんなものでした？  
吉田：この情報収集に費やす時間をどうやって作っているのかと、そこにまずびっくりして。それほど自分の人生加担させてね、辛抱強くサイトにまとめるパワーは、一体どこから来ているのかと。内容も本当に細かいし、それだけの興味を持続するのは並大抵力ではないわけで、まずはそこに感心しました。正直、頭が下がります。確かその須田さんからは、オフィシャル・サイトを始めるに際して止めたファン・クラブを「止めないで欲しい」という熱心なお手紙まで頂戴したんです。今もその手紙は持っていますが「ここまで大っぴらに応援していると、悪い事も出来ない」って書いてあって。全くその通りですよ。ライブの際、お客様にファン・クラブの終了理由を尋ねられ、そのお手紙の内容も含めてお話しした記憶があります。

JT：一方、アーティスト自身がファイル魔という場合もありますね。  
吉田：居る！細野(晴臣)さんかな。でも、あの方自身は多分ズボラなんだろうが(笑)、周りの人たちが凄く「細野晴臣」を愛して。本人がやらせない代わりに周囲がもの凄くマメに管理しているんだ、と。でも本人も学生時代のちょとしたメモも、実は全部持っていたりしてるのかと。職種は違っても、大竹伸朗さんと同じですよ(笑)。少年期からの書き散らかしも、お母様がきちんと残していたわけじゃないですか。

JT：吉田家の場合は正反対ですか？  
吉田：うちはもう、家族総出でそれがないんですよ。私が小学校で賞を買ったものとか、記憶に残る超褒められたバツの細密画(笑)ひとつ残ってない。引越す度に棄てられている。私が珍しく憶えているものさえ、棄てられていますからね。父も母もモノに執着が一切ないし、吉田の家系というのか、しっかり私を受け継いでいる(笑)。そういう面でも「記録」が私と一番遠いものかもしれないですね。

吉田美奈子の

「音楽の言葉」

Vol.4

記憶と記録

聞き書き連載 聞き手：末次「JT」安里 (本誌編集長)

JT：美奈子さんはあんまり“ふり返る”タイプではないでしょう？  
吉田：ですね。むしろ近い未来を視るほうなんで、終わったものはほとんど消えてしまふ。それにふり返ってニマリするよう得したこともないし、第一まだ生きているわけだし(笑)。  
JT：公式サイトでBIOGRAPHYを閲覧しても、年代毎の記述内容に濃淡がありますね(笑)。  
吉田：まったくもって(笑)。私の場合、レコード会社と契約していない時期というのが通算11年あるわけですよ。5年間は作家やプロデューサーなどスタッフの仕事をしていたり、6年間はライブ活動しかしてなかったりとか。そういう時期が間にあるし、ものを創っている時の自分なんて書きようがないじゃないですか(笑)。CMの仕事もタイアップではないので、ほとんど自分でも憶えてなかったりしますね。  
JT：日記魔とか、今でいうブロガー気質ではないんですか。  
吉田：そう、若い時はもっとと興味なかった。年齢をとってからだとノロいし(笑)、案件を慎重に対処するので、印象としては昔よりは記憶に残ったりするけれどもね。どちらかというと私の場合、過去に何があったということにあまり興味がない。独りだとね、やる事を合理的に最低限に抑えないと、やっていけないのです(笑)。たとえばラジオに出て、曲は何をかけたって憶えていてもしょうがないですし、「あとで編集して送ります」と言われても結局音は来なかったりするから、実際番組聴いてメモでもしない限り忘れる。  
JT：ところがネット社会の書き込みで記憶が掘り起こされたりして。

自分の中の、知らない部分

text by hanao (JJazz.Net) vol.9

今ほこれ、また別のときは別の音、といった風に体がそれを欲しがるといふこと、という感じがするのだ、ということ

冬が緩みだすこの時期に聴きたくなるのは、優しく穏やかな音ではなくて、むしろ激しく激しい音だったり、しつこく外に向かかって猛々しく放つものよし、おかしくなりそうなのよ。存外に両者は相通ずるところがあるのではないかと、この頃考え始めました。

もつたりと生温い空気の季節になりました。どつちつかずのまどろっこしさに、春という季節の危うさを感じます。この冬は、寒さにいまひとつ切れがなかったもので、いままふわりと暖かくなって、いたい大丈夫なんだろうかと、とも思っています。

大切なものに会おうために。 JJazz.Net

いろいろな音を知る、というのはたぶん、自分の体と心を知る、ということに繋がります。存在しているものは多くても、その存在を認識されなければ存在は証されません。あなたの体にも、あなたの心にもきつと、未知の領域は多いはずですよ。そしてそれらはこの春、あなた自身に見つけてもらうのを、きつと待っていて、その鍵となるのが、まだ知らない音楽だったりも、するのです。

いろいろな音を知る、というのはたぶん、自分の体と心を知る、ということに繋がります。存在しているものは多くても、その存在を認識されなければ存在は証されません。あなたの体にも、あなたの心にもきつと、未知の領域は多いはずですよ。そしてそれらはこの春、あなた自身に見つけてもらうのを、きつと待っていて、その鍵となるのが、まだ知らない音楽だったりも、するのです。

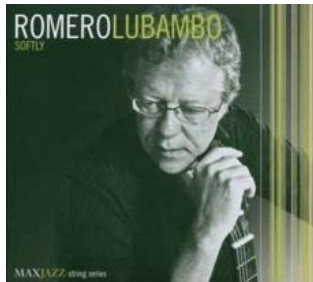


月額1,050円の会員サービスでは約4ヶ月分のアーカイブ、常時約500曲が聴き放題

www.jjazz.net

within Vision 3 / 吉田美奈子
I0BD-21017 ¥5,040(税込) 2004/11/03 RELEASE DVD
2004年、東京の品川教会で行われた倉田信雄(ピアノ)とのDUO公演が、DVDとなって発売されています。厳選した曲目が、聴くすべての心を掴み、自然に流れ出る涙が止まらなかったと、いまだ語り継がれている特別な一夜が、余すところなく収録されています。
① VOICES ② 声を聞かせて③ PRECIOUS ④ SIGN OF DISTANCE ⑤ CORONA ⑥ 傍にいる ⑦ 雲の魚⑧ FORGIVING ⑨ STARBOW ⑩ もみの木⑪ LIBERTY ⑫ 星の海 ⑬ 愛があたためる⑭ おやすみ
吉田美奈子 & 河合代介 DUO
5月26日(土) 目黒 Blues Alley Japan ■問合せ先：ブルースアレイ 03-5496-4381
5月27日(日) 目黒 Blues Alley Japan ■問合せ先：ブルースアレイ 03-5496-4381
5月31日(木) 京都 RAG ■問合せ先：ラグ075-241-0446
6月1日(金) 名古屋 Bottom Line ■問合せ先：ボトムライン 052-741-1620

【吉田美奈子】シンガー/プロデューサー/作詩・作曲家
1969年、当時交流を持った音楽家たちから影響を受け、楽曲制作を始める。間もなくシンガー・ソング・ライターとして、ライブ中心の音楽活動を開始する。1973年、アルバム「扉の冬」で本格的なデビューの後、CM音楽等の制作、他のアーティストのプロデューサー、コーラス等のスタジオワークも。2007年1月現在、オリジナルアルバム19作品(ライブ、ベスト、シングル、企画盤は除く)、コラボレーションアルバム2作品、ライブ映像収録盤を4作品リリースしている。ジャンルを越えつつある自由な音楽活動は、クオリティーを保ちながらも個性を発揮するミュージシャンズ・ミュージシャンとして、多方面から共賞を熱望され、常に高い評価を得ている。



### Romero Lubambo SOFTLY

MAXJAZZ MXJ603

- ① Vitoriosa
- ② Just the Two of Us
- ③ Nature's Beauty
- ④ Ingenuo
- ⑤ Vieste
- ⑥ Fly So High
- ⑦ In the Wee Small Hours of the Morning
- ⑧ Heaven Here
- ⑨ Comin' Home Baby
- ⑩ I Fall in Love Too Easily
- ⑪ By the Stream
- ⑫ Pamela Elaine
- ⑬ Happy Madness
- ⑭ Time After Time

## 音の流れに、 耳をまかせ。

ただ聴いていけばいい、何か言葉が必要になることはない、という音楽がある。もちろんそういうふうにも思えるのも、自らが置かれているさまざまな文化交差点とかこれまで聴いてきたり親しんできたたりした音楽的記憶とかに存しているわけで、ちょっと位置をずらせば、言うべきこともあるのだろうとわかってはいる。それでも、そうしたおもしろさ、ま、いっか、と感じさせてくれる音楽。ロメロ・ルバンポのソロ・アルバムは、最近の、そのひとつにあたる。きっと「ジャズ」ではないのだろう、「ボサノヴァ」とかブラジリアン・ミュージックに傾斜している音楽なのだろう。イヴァン・リンスやピシグーニャ、ジョピン、自作、その他を弾いている。2つから6つくらいの異なったギターを重ねていて、メロディ、ソロ、3つのリズム、ハーモニーというそれぞれのパートがどのギターを使っているかが記されている。スペインとドイツのクラシック・ギター、日本にシンセサイザー・ギター、合衆国のエレクトリック・ギター、ブラジルのカヴァキニョ、スペインのフレットレス・ギター。だから、ギターが好きなひとなら、いろいろな角度から楽しめる。ルバンポは1955年、リオ・デ・ジャネイロの生

まれ。小さい頃はピアノと音楽理論を学び、十代からギターを始めている。ヴィラ＝ロボス音楽院ではクラシック・ギター科を首席で卒業。以後は、クラシックではなく、ブラジルの音楽的イデオロムを生かしたジャズ・ギタリストとして活躍、1985年には拠点をニューヨークに移し、以後、多くのアメリカの、ブラジルのミュージシャンのレコーディングに参加している。ベースとドラムスとともにトリオ・デ・パスを組んでいるので、そちらで知っているひともいるだろう。何とはなしにながしていると、音楽はそのままひとつのものとしてひびき、そのやわらかい音が空気を満たす。BGMにだって充分になる。BGMとはしばしば、もともとの音楽の質感というよりも、再生する機器のヴォリュームやそれがなされる環境による。BGMといいながらその組成がとても緻密で繊細であることも多々あることだ。そして一方、ルバンポのソロにじっくり耳をかたむけると、メインのメロディ以外のパートが、ちょっとしたアルペジオの「この」部分、低音でぼんとならされる「あの」音というふうに、ルバンポの手の、指の絨に触れるさまが見えるかのようだ。



連載 vol.14

text by 小沼純一



## マイ・ファースト・プロデュース



MY IDEAL / TEDDY WILSON

かつて、ベニー・グッドマンやレスター・ヤング等と共演し、不世出のヴォーカリスト、ビリー・ホリデイの吹き込みにも参加したジャズ・ピアノの名手ティディ・ウィルソンが1970年の夏に突如来日した。そのティディがレコーディングすると聞き、RCA (現BMG) のディレクターだった井阪さんに頼み込んで千駄ヶ谷にあるビクター・スタジオで見学させてもらったことがある。

よくが日本フォノグラム(現Universal Music)に入社して間もない頃のことだ。初めてスタジオのコントロール・ルームに足を踏み入れた瞬間、ビーンと張り詰めた空気が漂い、自分でも緊張しているのが分かった。いくつかのピンスポットに照らし出された、キラキラ輝く大型コンソール。ずらりと並んだ、数十チャンネルのモジュールは、まるで飛行船の機内から見る夜景のようだった。それに、馬鹿でかいスピーカーとそこから流れる大音量もハンパじゃなかった。さすがプロフェッショナルと感動したものだ。その一年後、縁あって同じスタジオでティディ・ウィルソンのソロ・ピアノ『マイ・アイデアル』を録音することになった。そして、このアルバムがぼくのファースト・プロデュース作品となった。選曲はティディの馴染みのレパートリーだったのでスムーズに進行するかに思えたが、数曲収録したところで何かが違うと感じた。ヴェルベット・タッチのティディとはいえ、サウンドがちょっとソフト過ぎる。「もう少し、クリアなサウンドの方がいいなあ」と、ぼく。すると、エ

ンジニアはピアノの弦に向けてある2つのマイクロフォンの向きを変えた、というか、180度反対にセットし直したのである(初のレコーディング失敗談)。休憩後のサウンドは実にクリアで(当然だが)、素晴らしいレコーディングとなり23曲を収録。その後、このアルバムがカナダでも発売され、プロデューサーとして幸先の良いスタートとなった。LPにはカッティング時間の都合上、14曲しか収録されていないが、今後、CDで複製する時には未発表音源を加えてもらいたいと思うほど、眠らせておくには惜しい音源である。

【いとう・やそはち】  
1946年岐阜県生まれ。早稲田大学を卒業後、日本フォノグラムに入社。イースト・ウィンド・レーベルを設立し、ザ・グレイト・ジャズ・トリオ、渡辺貞夫、日野明子らをプロデュース。CBS / SONY時代は洋楽企画制作の一方で、ザ・スクエア、マリリン、笠井紀美子ら、国内 JAZZ / FUSION 系アーティストの制作も担当。のちにケイコ・リーや TOKU R を育成、2001年にはエイティ・エイト・レーベルを立ち上げる。現在に至るまでのアルバム・プロデュース作品は国内外を合わせて約450点、洋楽編成時代に担当した作品は優に3,000点を超えるという。

第11回

## Impression of Tristano

文&カット 平井庸一



## ダブル・ベース(2) / Turkish Mambo

最近では徐々にジョー・マネリに、はまっています。さて、前回は2ベース編成のバンドで再出発することになるまでの話でした(01年頃)。2ベースのバンドを始めるにあたって参考になったのがアンドリュー・ヒルの『Smoke Stack』(63)というアルバムでした(ベースはリチャード・デイビスとエディ・カーン)。カーンはひたすらウォーキング・ベースを刻み、デイビスはそれと並行して異なる譜割のラインを弾いたり、自由にバックアップとソロの中間のようなことを弾いたり、弓でテーマを奏でたりしています(何年も聴いていないのでうろ覚えですが)。自分のバンドでも、当初はそうのように二人の役割を分けていましたが、それだけでなく、もう少し、2ベースをより生かした演奏ができないだろうかと思えました。——ところで、アルバム『鬼オトリスト』のA面には、オーバーダブを駆使した曲が収録されており、その中に『Turkish Mambo』という曲があります。同様にオーバーダブを用いた『Line Up』や『Requiem』に比べて言及されることが少

ない曲ですが、音源を聴きこみ、ライナーノーツやトリスターノに関する文献をよく読んでみると、実はこの『Turkish Mambo』がトリスターノの、音楽に対する考え方を表わしている非常に重要な曲であるらしい(?)ことが解ってきます。グループで演奏する時のトリスターノは、リズム・セクションに4/4拍子をしつかりとキープさせ、その上で3、5、7といった奇数拍のフレーズを多用したり、フレーズの出だしの拍をずらしたりしてアドリブしますが、『Turkish Mambo』では、クリック音のように刻まれるハイハットに乗せて、ピアノで、7拍子、6拍子、5拍子の三つの延々と繰り返されるリフをオーバーダブし、さらにそれに重ねて、4/4に近いフィーリングでアドリブを弾いています。つまり、ピアノの音のみで構成することでソリスとリズム・セクションの間でのヒエラルキーをなくし、複数の異なる(メロディ・)ラインが同時に



平行して進行するという、自身の音楽のコンセプトをより明確に解りやすく提示していると考えられるのです。『Turkish Mambo』を聴いて、「2ベースを生かしてこの曲をバンドでやってみたら面白いんじゃないか」という考えが浮かびました。

### LIVE スケジュール

4/20(金) 新宿ピットイン  
夜 2:30 ~ ¥1,300

●平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、橋爪亮吾(Ts)、海道雄高、蛇子健太郎(B)、竹下宗男(Dr)

毎週金曜 六本木 FIRST STAGE  
夜 7:30 ~ (03-3405-1910)

●ジャムセッション進行。全楽器完備

## 「今月の一枚」

1978年に製作された『Strode Road』が復刻され、爆発的に売れているらしい。その現象には本人も驚いているという。この作品は『Strode Road』以来29年ぶりに製作された最新作だ。期待を遥かに上回るそのサウンドに正直絶句した! ポジティブなリアクション! 思わず腰が動くGroovyなキラーチューンが目白押し。胸躍るスタイリッシュな太田朱美のフルートに、ひときわ輝きを増す関根敏行のピアノ。ジャズ/ブルース/ロック/ソウル/ラテン等に仕上げられた青春時代を過ごしたという5人の個性と時代の匂いが鮮やかにドッキングした傑作。瑞々しいしなやかな感性を映し出すそのサウンドは時代をスイッチする。

(大河内善宏)



Max Leth Quartet / Max Leth (Universal)

今年2月、フィリップス、フォンタナ、ソネットの7作品が一気にユニヴァーサルから発売された。その中から、ペドロ・バイカーの1966年録音『ザ・ソング・イズ・ユー』と、このピアニスト兼ヴァイオリン奏者マックス・レスの1978年コペンハーゲン録音の正統派ハードバップ作品を特にお奨めしたい。前者には当時のデンマークを代表するアラン・ポッチンスキーにベント・ヤーデイクなど豪華な顔ぶれが揃い、後者もニールス・ペデルセンやバルン・ロストヴォルドを起用する期待どおりの作品。こんなに素晴らしい復刻CDなのに、なんと、驚愕の1,565円なのだ。嬉しき倍増というもの。しかもデジタルリマスターとのことで、もう至れり尽くせり。

(前泊正人)



関根敏行NIPPON SOUL JAZZ BAND / 誕生 (MUGIGI)

## 旬でホットなジャズ情報! MOONKS EXPERIENCE NEWS Vol.10

ニューヨークでの活動で注目を集めるコロラド出身のサクソフォニスト、フルーティスト、コンポーザーであるティア・フルーの2枚目のアルバムはアルバムタイトルからスムーズなオープニングかと思えば(Breakthrough)のハード・ドライビングなぶちまけ系で目が覚める。メンバーを見てさらに驚くがピアノの早間美紀を始めベース、ドラム、パーカッションを女性で固めたフィーメールバンド。特にキムのドラミングは強烈かつ秀逸。ティアはアルト・ソプラノサクソとフルートで強力なバンドを従える。あのピョンスのツアーメンバーでもあるティアの多彩なフレージングを楽しみたい。

(白澤茂稔)



Tia Fuller / Healing Space (MAC AVENUE)

# キース・ジャレット・トリオ2007



天才ジャズトリオが繰り広げる至福のひとつ

~~2007年4月30日(水・祝) 開場:18:00 開演:19:00~~

2007年5月8日(火) 開場:18:00 開演:19:00

会場:上野・東京文化会館 大ホール

(JR上野駅徒歩1分/東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅徒歩5分)

2007年5月10日(木) 開場:18:00 開演:19:00

会場:新宿・東京厚生年金会館

(東京メトロ丸の内線新宿御苑前駅徒歩5分/東京メトロ丸の内線・都営新宿線新宿三丁目駅徒歩10分/西武新宿線西武新宿駅徒歩12分/JR・京王線・小田急線 新宿駅徒歩15分)

料金(税込): ~~SS 10,000円~~ S席 10,000円 A席 8,000円

出演:キース・ジャレット(ピアノ)

ゲイリー・ピーコック(ベース)

ジャック・ディジョネット(ドラムス)

主催:読売新聞東京本社

協力:日本航空

ユニバーサル クラシックス&ジャズ

ビデオアーツ・ミュージック



キース・ジャレット夫妻撮り下ろしの写真による写真集仕立ての豪華公演プログラム制作中!!  
キース夫妻本人にしか撮れないオフショットなど未公開写真が満載!売り切れ必至。乞うご期待!

<大阪公演>

2007年5月3日(木・祝) 開場:18:15 開演:19:00

会場:大阪フェスティバルホール

お問合せ:キョードー大阪 06-6233-8888

<横浜公演>

2007年5月6日(日) 開場:18:00 開演:19:00

会場:横浜・神奈川県民ホール

お問合せ:KMミュージック 045-201-9999

チケット発売所

鯉沼ミュージック 03-3404-6890 <http://www.koinumamusic.com>

Bunkamuraチケットセンター 03-3477-9999 (4/6公演のみ)

東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452 (4/27、5/8公演のみ)

チケットぴあ 0570-02-9999 0570-02-9966 <http://www.pia.co.jp/>

(Pコード:キース・ジャレット:234-221、綾戸智絵:245-107)

\*未就学児童のご入場はご遠慮願います。 お問合せ:鯉沼ミュージック 03-3404-6890

# 綾戸智絵 SPRING CONCERT 2007



いつもの気の合った仲間と  
フレンドリーな雰囲気  
魅力のオーチャードホール

2007年4月6日(金) 開場:18:00 開演:19:00

会場:渋谷・Bunkamuraオーチャードホール

(JR/東急東横線・田園都市線/東京メトロ銀座線・半蔵門線/京王井の頭線 渋谷駅徒歩7分)

共演:宮野弘紀(g)、西嶋徹(b)、田中倫明(per)、  
アノインテッド・マス・クワイア

東京文化会館にて念願の7年越し、  
初ステージ!!

2007年4月27日(金) 開場:18:00 開演:19:00

会場:上野・東京文化会館 大ホール

(JR上野駅公園口徒歩1分/京成電鉄・東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅徒歩5分)

共演:中村真(p) \*2曲のみ参加

料金(税込):全席指定 7,000円

主催:読売新聞東京本社

企画制作:イーストハウス/まいど

\*都合により出演者が変更となる場合がございます。



7年前に鯉沼のおっちゃんに  
連れて行った貰った、キース・ジャレット。

それが東京文化会館。もちろん、キースも良かったけど、容れ物だった東京文化会館に一目ぼれをしてしまった。「あたしできるわけないよね?ここで?」。すると笑い飛ばしたおっちゃん。どんな意味だったのか。「ほらね」とのごとく、私のコンサートの日程を知らせてくれた。最初で最後の文化会館かもしれない。どういう意味って、簡単よ。次回のことなんか気にしないで、私流にやります。でもやっぱり、シャツ新調しようかな?いつもより2割増。皆さん、今回逃したら、次の上野のコンサートは、パンダと一緒に、西郷さんのイヌの番か、どっちかだと思います。是非とも聞き逃さないように。そして、全国の不良おばさんに自信と勇気を与えるため、あの、あの上野の東京文化会館で炸裂します。そのためには私の発電所である皆さんが一番大切です。それが大事。

綾戸智絵


C Nプレイガイド 0570-08-9999 <http://www.cnplayguide.com/>

ローソンチケット 0570-084-003 <http://www2.lawsonticket.com/>

(Lコード:キース・ジャレット:38479、綾戸智絵:38560)

イープラス <http://eplus.jp/>

# www.koinumamusic.com



今月の1枚

クリス・ミン・ドッキー／ザ・ノマド・ダイアリーズ

坂本龍一、マイケル・ブレッカー、マイク・スターン、ランディ・ブレッカー、ジョージ・ウィットティラの豪華ゲストを迎えた最新作!!

BLUE NOTE TOCJ-66369 ¥2,500(税込) 2007/3/14 RELEASE

①セブテンパー (for Tanja) ②ラスト・コール  
③イフ・アイ・ラン④プログ: トラッキング  
⑤サテライト⑥プログ: フライダ&マイロ  
⑦サスケヤナー⑧プログ: ライズ+シャイン  
⑨ライフ・イン・ザ・ミラー⑩ホエア・ア・ユー?  
⑪静けさの森の中で12. プログ: ネオン※  
⑫ティーン・タウン※ 14. プログ: ディスプレイ※

※日本盤のみのボーナス・トラック

■パーソネル  
クリス・ミン・ドッキー (b) / 坂本龍一 (piano)  
マイケル・ブレッカー (ts) / ランディ・ブレッカー (trumpet)  
マイク・スターン (guitar) / ジョージ・ウィットティ (key, prog)  
ヤコブ・クリストファーセン (piano) / オズ・ノイ (guitar)  
キャスパー・ヴィヨーム (piano) / KO(vo)  
マックス・B. クローグ (electro prog)  
マイケル・ハースバーク (prog)

## 音楽ライターは素敵な商売!!!

small talk time

連載 vol.1

text by 工藤 由美

音楽ライターになって12年が過ぎた。が、初対面の人に「お仕事は?」とたずねられると、いまだに口ごもる。

だいたいにおいて「音楽ライター」だけでは、何をやっているのか、わからない。ひどいときには、クラシックの作曲家と勘違いされることもある。

とはいえ、「ジャズ評論家」とは、おこがまして、とても言えない。第一、アーティストのインタビュー記事やCDの解説を含め、ジャズにまつわる雑文を書いて生計を立てているものの、どう考えても「評論」はしていない。

何より「評論家」を名乗るには、知識が絶対的に不足している。音楽とは縁遠い生活をしてきたサラリーマン時代の12年間のブランクは、ほとんど致命的だ。

そもそも知識・経験・愛着のどれをとっても、筋金入りのジャズ愛好者(通称「おたく」)の足元にも及ばない。検定ブームがジャズまで及んだ日には、3級だって受かるかどうか、怪しいものだ。

決まり悪さの原因は他にもある。この職業、えらそうだけど、音楽家に寄生しているようなもので、この世にミュージシャンがいなければすぐに路頭に迷う。逆に言えば、この世になくてもいい仕事だということ。加えて、これほどいい加減な職業もない。何の資格も基準もないから、名刺に肩書きとして記入し、自ら宣言した瞬間、誰でも「音楽ライター」になれるしまう。

そんなわけで、私は、劣等感に悩まされ、身を縮めながらこの仕事をしている(「どこが!」と外野)。

それでも「音楽ライター」は、素敵な商売だ。日長、大好きな音楽に浸ってられるばかりか、憧れのミュージシャンに直に話が聞けたり、出来立てのほやほやの新譜を聞けたり、取材と称してコンサートに行けたり、楽しいことばかり。その上、文章という形で、音楽やアーティストに対する自分の思いを世に伝える機会が与えられている。他人がどう思おうと、ワーキングブアに陥ろうと、一度やったらやめられないのである。

シカゴ前衛派と呼ばれるミュージシャンたちの集り... 正確にはNPO法人だ。1959年のオーネット・コールマンを発端とするフリージャズの流れから巻き起こったムーブメントで、そこから生まれたArt Ensemble of Chicago(AEC)なんかは、たった2年の間にヨーロッパで14枚もアルバムを出しちゃって、AACMはその後のジャズの歴史に大きく名を残すことになった。シカゴに行けば、今でも彼らのすさまじい即興音楽を聴くことができる。でもAACMが特殊なのは、組織自体が学校として機能していて、今も昔も『ジャズの未来を担う』クリエイティブな「音楽家を育てる精神」を貫いているところだ。即興芸術としての黒人音楽。ジャズは過去を焼き直すものではなく、過去を基礎に進化し続けるものって思想から、新しい才能を育てる努力は惜しまない。創設に関わったレスター・ボウイが8年程前に亡くなり、重要な初期構成員もだいぶ減ってしまったが、フレッド・アンダーソンは80歳目前にしても未だシカゴで精力的に活動している重鎮の一人だ。昨年はついに、市の都市計画事業に負けて長年経営してきたヴェルベットラウンジを移転することになったが、彼を訪れるミュージシャンはあとを絶たない。黙々とテナーを吹き、じっと若者の演奏に耳を傾けるフレッド。そんなフレッドから彼らが受け継ぐのは音楽だけでなく、ジャズの未来を育てる精神なんだろうな、なんて思う。



© NAMI OGATA

## Jazz of LIFE

シカゴと夜と音楽と

連載 vol.12

## Ancient to the Future

text by 尾形奈美

http://www.chicagojazzphotos.com

## JAZZへの扉

Vol.15



所属事務所が替わったばかりのアキコ・グレースさんにとってJAZZへの扉となった一枚は、久しぶりに直球なジャズ。LPのジャケットが全作品とも美しくかつたけれど短命だったライムライト・レーベルの傑作、オスカー・ピーターソンの『カナダ組曲』。3つの頃から母のピアノの手ほどきを受け、クラシック・ピアノの勉強を続けていた中学生の彼女の耳に入ったオスカー・ピーターソンの脈がするようなタッチの即興演奏が、その後彼女の人生を変えるジャズへの扉となるには、それから数年の時間が必要だった。

ジャズ・ピアニストだという実感は、ライブを重ねるたびに深まっていく気がします。

アキコ・グレース(談)

原田真人→宇崎竜童→矢野沙織→早坂沙知→原田芳雄→坂田明→阿川佐和子→島田歌穂→森山良子→かまやつひろし→藤田恵美→岡本真夜→国府弘子→赤木りえ→アキコ・グレース

【アキコ・グレース略歴】

1974年神奈川県生まれ。ピアノ教師である母親の影響で3才からピアノを習う。10代の中頃、ラジオでオスカー・ピーターソンを聴いてジャズに魅せられる。東京芸術大学音楽学部薬理科とバークリー音楽大学ピアノ演奏科を卒業。2000年、米國アーティストトピザを取得。2002年1月11日、SAVOYレーベル初の日本人アーティストとしてメジャー・デビュー。2003年サード・アルバム「ニューヨーク・スタイル」が、第58回平成15年度文化庁主催芸術祭優秀賞・レコード部門賞を受賞。また、第37回2003年度スイングジャーナル・ジャズディスク大賞「日本ジャズ賞」を受賞。



- 2007/04/26(木) 開演 19:30 六本木サテンドール  
早川哲也 (b) 小山木郎 (ds) サブライズゲストあり  
(開)サテンドール 03-3401-3080
- 2007/05/04(金) 開演 19:20 茅ヶ崎市民文化会館(小)  
2007湘南ジャズフェスティバル茅ヶ崎  
アキコ・グレースジャズコンサート(ソロピアノ)  
前売り 一般3,000円 学生1,500円(当日500円増)  
チケット取り扱い  
茅ヶ崎市民文化会館(0467-85-1123)・ハイクハット(0467-87-0900)  
長谷川楽器本店(0467-85-1725)・新星堂茅ヶ崎ラカ店  
(0467-87-3834)  
湘南リビング新聞社(0466-27-7411) kato@husky-s-g.com  
(開)ハスキーズギャラリー 0467-88-1811
- 2007/05/05(土) 開演 14:00 厚木市文化会館  
平野公崇 (sax) Akiko Grace (p) 納浩一 (b)  
大人2,000円 子ども1,000円(全席自由)  
※子どもは小学生~高校生までチケット取扱  
厚木市文化会館チケット予約センター 046-224-9999  
本厚木ロードアレイガイド 046-230-3291  
http://www.takagi-klavier.com/ag\_top.html

上の兄弟3人と同じように私も3歳の頃からピアノの先生をしている母親にピアノを習い始めました。好きだとか嫌いではなく、どんな家でもそうやってみんながピアノを習うものだと思っていましたので、幼稚園に入り友だちが出来てから、他の家が違うことに気づいたのです。

小学生になり、母と一緒に遠方のピアノの先生に習いに通ってましたので、母が私にクラシックのコンサート・ピアニストになって欲しいと考えていることは感じていました。自分ではどうしようかと考えていた中学2、3年生の頃、家で流れていたラジオ番組で耳にしたジャズにキラッと光るものを感じ、これは自分と関係があるかもしれないと直感しました。メロディーを頼りに調べたところ、オスカー・ピーターソンのアルバム『カナダ組曲』に入っている『ウィートランド』という曲でした。自分が毎日向き合っている楽器でまったく違う演奏が出来るということに驚きまし

たね。譜面を演奏するのではなく、クラシックのカデンツァのような自由な即興演奏が曲中に出てくることに興味をひかれ、自分で演奏することは全く考えませんでした。ジャズが面白くなり、有名なジャズ・ピアニストの演奏を片っ端から聞き始めるようになったんです。

高校2年生の時、自分はジャズに興味があるので「アメリカに勉強に行きたい」と母に告げました。寝耳に水の母親は相当ビックリしましたが、「好きで興味があるからやりたい」というだけでは説得力が薄手で、受験からの逃避だと受け取られ、一旦、日本の大学に入って勉強を続け、その後何年たってもジャズに気持ちが向いているようであれば「それからアメリカに行っても遅くはない」と説得されて芸大に入学しました。結局、2年生の時に休学してアメリカに行きました。ただし、当時は「ジャズをもっと知りたい」という情熱と興味と好奇心だけでしたので、この音楽に命をか

けるというような気持はありませんでした。

オスカー・ピーターソンがジャズへの入り口となりましたが、その後、沢山好きなピアニストが増えましたので、たった一人のアイドルとは言えませんが、私の自己表現、即興演奏の原点はオスカー・ピーターソンということになります。ジャズを演奏するということは演奏家であると同時に作曲家でもあります。和声的にも方法的にもジャズはポピュラー・ミュージックの頂点にあると思います。リズム感やハーモニー感などの最も目の細かいのがジャズで、ジャズが出来ればポピュラー音楽すべてに応用出来ると思います。ジャズという音楽を再現するのではなく、ジャズというツールを自分の演奏の中にとり入れて、自己表現の確立を目指していますが、自分がジャズ・ピアニストだという実感は、ライブを重ねるたびに深まっていく気がします。

編集協力:ピンポイント

## e-onkyo music



## ”原音”へのこだわり

ジャズ・クラシックの名曲 約3万曲 高音質で勢揃い

HD高音質音楽配信サイト e-onkyo music  
http://music.e-onkyo.com/

# NEW DISC INDEX



## EVOLUTION

中村新太郎クインテット ft. 大野俊三

モデルでダイナミックなベースランニングで知られるベーシスト、中村新太郎のファースト・リーダー・アルバムが遂にCD化!! (1985年NY録音)大野俊三(tp)をフィーチャーしていることもあって、和ジャズファンの間ではかなり知られた名盤です。大野のスリリングなトランペット、ポップのエモーショナルなサクソ、田井中福司のダイナミックドラミング、リリカルなピアノはロバート・ジェンキンス。そして中村のエネルギーで的確なベースランニングが作り上げるモデルで情熱的なサウンド、オーセンティックなジャズファンからコアなマニアまで幅広くお勧めです。

- ① Future on You
- ② Don't Forget Me
- ③ Sweet and Sour Sound
- ④ Evolution
- ⑤ Blind Man

2007/3/24 Release

SOLID RECORDS  
CDSOL-1159  
¥2,625(税込)



## ブラック・アイズ

藤田ゆかり

素晴らしい仲間たちとのLAでの出会い!  
藤田ゆかりの名旋律に新しい命が吹き込まれた!!

- ① Ballade No.4 (Chopin op.52) ② Black Eyes
- ③ New York Connection ④ Invitation ⑤ Filter
- ⑥ Tears Of You ⑦ Night And Day ⑧ Summertime
- ⑨ Oh, Lady Be Good! ⑩ Beautiful Love

Yukari Fujita (Piano)  
Stan Gilbert (Bass)  
Harvey Mason (Drums)  
Guest Artist  
Ernie Watts (Tenor and Soprano Sax) (2,3,5,7)  
Charles Owens (Flute) (6)

2007/3/21 Release

M&I  
MYCJ-30412  
¥3,000(税込)



## 起きて寝る -FUNNY DAY & HARD NIGHT-

PE'Z

3年半ぶりのFULL ALBUM「New Song」「New Concept」「New Approach」前代未聞2枚組32曲が完成!!

『FUNNY DAY SIDE』

- ① BLANK-DUNK ② ハナフキ ～花魁道中廻り通る～ ③ RUNI RUNI RUNI ④ 新しい日々 ～LUNA ROSSA～ ⑤ ハイビッチャーのテーマ ⑥ オキザリス～輝く心～ ⑦ BooBy Star ⑧ Live For The Groove (live ver.) ⑨ (ラタイズ A GO GO) ヒルビリー～太陽とビーチサン～ ⑩ 少年少少 ⑪ 我ら五人の情なり～We are five samurai～ ⑫ AMBIENT-57 ⑬ 朝を夢見じ ⑭ メラリズム ⑮ 鬼の樹～果てしなく我が子へ～

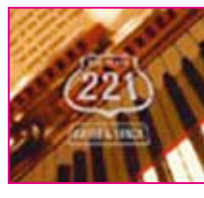
『HARD NIGHT SIDE』

- ① ハヤカゲ ② MARMALADE JAM ③ A～エース～ ④ GREEN DOLLS ⑤ ひんやりやん ⑥ パラノイア ⑦ 真夜中のアモーレ ⑧ LAURA ⑨ Terry's～Un's roots～ ⑩ テリシャス サンドウィッチ ⑪ 極 ⑫ MOSTA VIENTE ⑬ ビスタオボイス ⑭ THE SPIKER ⑮ アケビ ⑯ 懐かしい日々～SPRING VALLEY～

Ohyama "B.M.W" Wataru (Trumpet) / Kadota "JAW" Kouusuke (Sax)  
Kato (Drums) / Nirehara Masahiro (Wood Bass) / Heizumi Masayuki (Keyboard)

2007/3/28 Release

ROADRUNNER RECORDS  
初回限定盤 RRCA-29018/9 (3CD)  
通常盤 RRCA-21030/1 (2CD)  
¥3,200(税込)



## 221(two to one)

KOTEZ&YANCY

ブルースファンや音楽ファンからも絶大な支持を集めるブルースハープとピアノのデュオ KOTEZ&YANCY (コテツ & ヤンジー)の待望のサードアルバム。収録曲は50年代から70年代のルーツ(黒人)ミュージックからのカヴァーが中心。二人だけで様々な場所でソウルフルなライブを積み重ねて築き上げられたスタイルはまさにワン＆オンリーなアイデアに溢れ、ブルースやジャズ、リズム＆ブルース、ソウルといったルーツミュージックをスタート地点とした二人にとってそれらを視事に消化した一つの到達点と言える内容となった。

- ① MANY RIVERS TO CROSS ② TAKE ME TO THE RIVER
- ③ ROCK HOUSE ④ DON T GO NO FURTHER ⑤ DOWN BY THE RIVERSIDE ⑥ S102 SHORT TRAIN ⑦ MR STOMPIN' 88
- ⑧ DARLING YOU KNOW I LOVE YOU ⑨ TOO MANY COOKS
- ⑩ TALK TO ME BABY ⑪ DO YOU KNOW WHAT IT MEANS TO MISS NEW ORLEANS ⑫ ROOT BEER RAG ⑬ YOU ARE SO BEAUTIFUL

2007/3/22 Release

AIRPLANE LABEL  
AP-1031  
¥2,520(税込)



## Sophisticated Lady

春日クリスティ宏美

パークリー音楽院、マンハッタン音楽院の大学院を卒業し、ニューヨークを拠点に活躍中の本格派ジャズピアニスト春日クリスティ宏美のデビューミニアルバム。

- ① Will You Still Be Mine ? (Matt Dennis)
- ② Waltz For You (Hiromi Christie Kasuga)
- ③ You Don't Know What Love Is (Don Raye and Gene DePaul)
- ④ Sophisticated Lady (Duke Ellington)
- ⑤ In Your Own Sweet Way (Dave Brubeck)

春日クリスティ宏美 (Piano)  
TOM PIETRYCHA (Bass)  
DAVE TAYLOR (Drums)

2007/3/28 Release

Grace Notes Records  
GNRS-0009  
¥1,500(税込)



## FIRE LAND

奥村和彦トリオ

そして、一瞬の静寂を経て、曲が始まるとともに、3人の強烈な音圧は大きな塊となって、空間を震撼し続けた・・・「火の国サウンド大爆発!!」

- ① 「キユルリ」 kazuhiko okumura
- ② "what is this thing called love" cole potter
- ③ "pier" kazuhiko okumura
- ④ "dancing in the room" kazuhiko okumura
- ⑤ "Besame Mucho" consuelo velazquez
- ⑥ "Jitterbug Waltz" fats waller
- ⑦ "P.S" kazuhiko okumura
- ⑧ "fire land" kazuhiko okumura
- ⑨ "新橋ダンス" kazuhiko okumura

2007/3/8 Release

FIRELAND  
FL-001  
¥3,000(税込)

奥村和彦 (p) / 安東 昇 (b) / 伊藤宏樹 (ds)



## トシコ旧友に会う

秋吉敏子

1961年、5年振りにアメリカから帰国した秋吉敏子。渡辺貞夫、宮沢昭らを迎え、モードジャズ時代の幕開けを迎えたアメリカの空気をストレートに伝えた記念すべき1枚。

- ①ソー・ホワット
- ②夜は千の眼を持つ
- ③トナリ
- ④クベック
- ⑤オールド・パルス
- ⑥わたすのピートウィン

渡辺貞夫 (as)  
宮沢昭 (ts)  
秋吉敏子 (p)  
原田政長 / 栗田八郎 (b)  
富樫雅彦 / 白木秀雄 / 猪俣猛 (ds)

2007/3/8 Release

THINK!  
THCD-040  
¥2,520(税込)



## 山女魚

宮沢昭

日本が誇るテナー・タイタン、宮沢昭の初リーダー・アルバム。カルテットとテンテットの2部構成で、ハード・バップ～モード的プレイ全開! 佐藤允彦、渡辺貞夫など参加メンバーも超豪華な、これぞ逸品。(原田和典)

- ①山女魚
- ②メモリーズ・スルー・シック
- ③フライ・キャストリング
- ④ライク・サムワン・イン・ラヴ
- ⑤アウト・オブ・ノー・ホエア
- ⑥香わしたきたそがれ
- ⑦ライク・ソニー

2007/3/8 Release

THINK!  
THCD-039  
¥2,520(税込)

宮沢昭 (ts) / 佐藤允彦 (p) / 原田政長 (b) / 猪俣猛 (ds)  
※ 05～07 仲野彰 (tp) / 東本安博 (tb) / 松本光彦 (tr)  
青木武 (btb) / 渡辺貞夫 (as) / 宮沢昭 (ts) / 原田忠幸 (bs,cl)  
佐藤允彦 (p) / 原田政長 (b) / 原田寛治 (ds)



## Bossa Improvisada

廣木光一

ギター・ソロ・アルバムとしては95、96年に続き11年ぶり。今回は全てブラジルの名曲を集めました。Bossa Improvisadaのインプロビザータはポルトガル語で即興されたの意。メロディと音色、そしてリズムを大切にしながらアドリブを展開していきます。

- ① No Rancho Fundo / Ary Barroso - Lamartine Babo ② Brigas, Nunca Mais / Antônio Carlos Jobim - Vinicius de Moraes ③ Eu Sei Que Vou Te Amar / Antônio Carlos Jobim - Vinicius de Moraes ④ Gente Humilde / Garoto - Chico Buarque e Vinicius de Moraes ⑤ Samba De Uma Nota Só / Antônio Carlos Jobim - Newton Mendonça ⑥ O Que Será / Chico Buarque ⑦ Flora / Gilberto Gil ⑧ Modinha / Antônio Carlos Jobim - Vinicius de Moraes ⑨ Eu Te Amo / Antônio Carlos Jobim - Chico Buarque ⑩ Minha Voz, Minha Vida / Caetano Veloso ⑪ Se Todos Fossem Iguais a Você / Antônio Carlos Jobim - Vinicius de Moraes

2007/2/20 Release

Hiroki Music  
BIUYA-006  
¥2,800(税込)



## 自由への誓い

ウィントン・マルサリス

アメリカのジャズを代表する現代最高のトランペッター、ウィントン・マルサリス。待望のブルーノート4thアルバム登場!

- ①自由への誓い
- ②フアインド・ミー
- ③ドゥーイン・アウ・シンダ
- ④ラヴ・アンド・フロウクン・ハーツ ⑤スーパーキャピタリズム
- ⑥ジーズ・アー・ソウス・ソウルフル・デイズ
- ⑦ホエア・ヨール・アット?

2007/3/7 Release

東芝 EMI  
TOCJ-66369  
¥2,500(税込)

ジェニファー・サノン (vo)  
ウォルター・ブランディング (tenor&soprano sax)  
タンニマー (piano)  
カルロス・ヘンリクス (bass)  
アリ・ジャクソン (drums)



## 渋谷ジャズ維新:PIANO X 11~ピアノ・ジャズ・コレクション

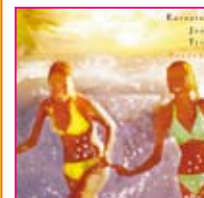
V.A.

和ジャズ・ファン感涙! 日本中から集めた珠玉のピアノ・コレクション! ピアノトリオ、ソロピアノ、ヴォーカルジャズトリオなどなど、万華鏡のごとくピアノの多面的な魅力を捉えたジャズ音源集。一味違うピアノジャズの新たな定義をアグレッシブに提唱までマニアも唸る最高のカルト・コレクション!

- ① A Muddy Muffin 佐藤允彦 from 「PIANIC PIANISM」 (DENON) ② DIS-CHARGE 鈴木宏昌トリオ from 「Primrose」 (UNION) ③ NIGHT AND DAY / 矢頭奈穂 from 「What I Did For Love」 (名古屋ディスク) ④ I HAVE BEEN BORN / 田中武久トリオ from 「I Have Been Born」 (NORIS) ⑤ TEARS / 辛島文夫トリオ from 「Landscape」 (WHY NOT) ⑥ 嗚嘆歌 / マグー・スィム from 「悪い季節」 (スィムスター) ⑦ MY FAVORITE THINGS / 坂元輝トリオ from 「海を見ていたジョニー」 (JOHNNY'S DISK) ⑧ NAIMA / 上野好美トリオ from 「Otsuchi」 (OTSUCHI JAZZ FAN CLUB) ⑨ ARIZONA HIGH WAY / 片山光明 from 「First Flight」 (JOHNNY'S DISK) ⑩ CARAMEL / 大隈寿男トリオ from 「The Melodies Of Love」 (SMS) ⑪ ラ・マドゥルガダ / カウンター・トレード from 「カウンター・トレード ep.1」 (クラゲイル)

2007/3/24 Release

SOLID RECORDS  
CDSOL-1154  
¥2,625(税込)



## 黄昏のサウダージ

ヨーロピアン・ジャズ・トリオ

EJTとジョビンは音楽の家系が一掃なのだ。ジョビン生誕80周年を飾るにふさわしく、今あらためてジョビンの音楽の本質と向き合う機会を与えてくれた、価値あるアルバムが生まれたことを喜ぶたい。 中原仁ライナーより

- ① CHEGA DE SAUDADE ② GENTLE RAIN
- ③ OUTRA VEZ ④ THE ISLAND
- ⑤ GIRL FROM IPANEMA ⑥ MAS QUE NADA
- ⑦ SUPERSTAR ⑧ CORCOVADO ⑨ JENNY WREN
- ⑩ BLACK ORPHEUS ⑪ DESAFINADO
- ⑫ THE LADY WANTS TO KNOW
- ⑬ ONE NOTE SAMBA ⑭ RED LARKS

2007/3/21 Release

M&I Jazz  
MYCJ-30411  
¥2,800(税込)

Marc van Roon (p)  
Frans van der Hoeven (b)  
Roy Dacus (ds)



## キュービク

アレックスandro・ガラティ・トリオ

ブルーグリーム第2弾、待望のトリオ作品。センチメンタルな感性はイタリアの美しき旋律へと表現を極め、優美な空間を刻む。深い哀愁の中に繊細かつ歌心あるピアノが琴線に触れる珠玉の名作。

- ① Cubicq
- ② I should doubt in autumn
- ③ Mary prayer
- ④ Stringimi forte i polsi
- ⑤ My delicarchitct
- ⑥ Ma l'amore no
- ⑦ Noir
- ⑧ Blue in gleam
- ⑨ Non dimenticar
- ⑩ Nuovo cinema paradiso(Love theme)

2007/3/17 Release

BLUE GLEAM  
BG003  
¥2,520(税込)



## 君微笑めば~ WHEN YOU'RE SMILING

マリーナ・ショウ meets フレディ・コール

マリーナ・ショウ、フレディ・コールがスタンダードナンバーを歌い上げる極上のライヴアルバム。

- ①ユー・アー・マイ・エヴリシング
- ②オール・オブ・ミー
- ③ホエイン・ライト・オファー・ユー・ウィン
- ④ラヴ・オブ・アソフゲッタブル
- ⑤マイ・フーリッシュ・ハート
- ⑥ニアネス・オブ・ユー
- ⑦アンティル・アイ・メット・ユー
- ⑧フィール・ライク・メイキン・ラヴ
- ⑨ゴスベル ⑩君微笑めば

2007/3/29 Release

RATSPACK RECORDS  
RPCJ-7001  
¥2,520(税込)

マリーナ・ショウ (vo) / フレディ・コール (vo)  
デイヴィッド・ヘイズルタイン (p) / ジェフ・チェンバース (b)  
レニー・ロビンソン (ds)



## サンブーガルー

ザ・ハイフライ・オーケストラ

Riovolt、Hipnosis、Liquid Loop等のメンバーが結成した6人組ジャズ・セット The Hi-Fly Orchestra。熱くドライブ感溢れる演奏と、アナログ感を重視した音質が60'sラテンジャズのグループを今に蘇らせる!

- 01. Mo' Slow02.Soul Bossa Nova03.Bruno The Bear
- ④ Suinge Dela ⑤ Hi-Fidelity ⑥ Sambogaloo
- ⑦ Liberated Brother ⑧ Belo Horizonte
- ⑨ Madrugada Orange ⑩ Sweet Honey Bee
- ⑪ Souffinder ⑫ Violet

2007/3/23 Release

stride  
SRIP-9026  
¥2,390(税込)

01. Mo' Slow02.Soul Bossa Nova03.Bruno The Bear  
④ Suinge Dela ⑤ Hi-Fidelity ⑥ Sambogaloo  
⑦ Liberated Brother ⑧ Belo Horizonte  
⑨ Madrugada Orange ⑩ Sweet Honey Bee  
⑪ Souffinder ⑫ Violet



## マイ・ハンブル・ハウスへアジア・ニュー・ジャズ

V.A.

美しいアジアの夜が、スウィングする。東京の銀座、シンガポールのラッフルズ・アヴェニュー、中国の北京で展開するラグジュアリーなアジア・ニュー・ジャズ『MY HUMBLE HOUSE』と豪華アーティストのコレボレーション。最新のクラブ・ラウンジ・ジャズを提案する、全く新しいフーティング・コンビレーションアルバムが登場。LAVA、BEI XUなど旬なアーティストの新録作品を収録!

- ① Denpasar Moon - LAVA feat. Olivia Burrell \* ② Dossier Omega - Nicola Conte ③ Sha Tan (Blue Moon) - Nori Shiota feat. Bei Xu \* ④ Oriental Smile - Paolo Fedreghini & Marco Biondi ⑤ Tradition - native ⑥ A New Way - Monday Michiru ⑦ Splendid - LAVA feat. Olivia Burrell \* ⑧ Alfie - cktg meets electro jazz remix - Gema Y Pavel with LAVA ⑨ Will You Still Love Me Tomorrow ? - Bei Xu ⑩ Saudade - La Turbo ⑪ Todo Dia - LAVA feat. Gladston Galiza ⑫ Shun-Min - SWING-O \* ⑬ Will You Still Love Me Tomorrow ? - Bei Xu with LAVA \* \* = 新録作品

2007/4/6 Release

BYOM MUSIC  
BYOM-0003  
¥2,625(税込)

# Jazz Today



## Water-Wasser

Hausmeister

日本でもファンの多い良質音楽レーベル "Karaoke Kalk" で、Wunder と肩を並べる人気アーティスト、ハウスマイスターがおくる至福の音楽!! 生のアンサンブルが空間を鮮やかに彩る極上リラックスミュージック。ギターからドラムまで、なんでもこなすドイツの音職人 (マイスター) ハウスマイスターの、実に3年ぶりの待望のニューアルバム!

PLOP / Nature Bliss  
PLOP-1  
¥2,500(税込)

2007/4/7  
Release

- ① Ursula ② Jeden Tag ③ Raphael
- ④ Grosse Reader ⑤ Amsterdam ⑥ ADA
- ⑦ Timotheus ⑧ Transport ⑨ Fynn Und Anton



## サイクリング

スーパー・スモーキィ・ソウル

ビート・ヘッズはもちろん、ニュー・ジャズ層やスケーターなどにも強烈にオススメしたい、ハイエンド・クロスオーバー・サウンド・・・! デビューからすでに宇宙的。ドス黒く煙たいSSSサウンド、2007年より始動!

サーキュレイションズ  
CIRC-001  
¥2,100(税込)

2007/3/10  
Release

- ① Intro ② Cassius Clay ③ Let's Smoke
- ④ Smile ⑤ Geek Beat ⑥ Simply ⑦ Control
- ⑧ No Title ⑨ African Beat Idea ⑩ Humming
- ⑪ Body ⑫ Let's Make the Beat ⑬ Groove Ride
- ⑭ Monica ⑮ Jingle ⑯ Love17. Calm
- ⑰ After Smoke ⑱ Every ⑳ Outro



## RIP U\$A

Bleubird

Bleubird 待望の2nd アルバム。多様なビートとラップは既存のHIPHOPの価値観を覆す作品。ゲストにMAKER、AnticonのSole、Aliasなど、さらにDJ Bakuのリミックスを収録!

Gramma Music Entertainment  
DDCG-2006  
¥2,310(税込)

2007/2/7  
Release

- ① Rip U\$A ② Writer ③ Very Beautiful Dangerous Joke ④ Switch Blades ⑤ Weasel-bird-tiger ⑥ Hell Country ⑦ Drunk On Movement ⑧ Kill Guys ⑨ Everything Up feat/Subtitle ⑩ United Nonsense ⑪ I Make Weird ⑫ Duct Tape Rub (feat Room) ⑬ Black Hawk Down feat/sole ⑭ Dads Cheek feat/fikoe176 ⑮ Motivationally Speaking ⑯ Playing Dress Up feat/fikoe17617. Gods Gun feat/jim wurster ⑰ Rocket Mouth (dj baku remix) ⑱ Duct Tape Rubber Room (g mayo mix) ⑲ Fuel For Hope ⑳ Rocket Mouth (alias beat)



## In the Distance

Sparlha Swa

4月7日、8日に東京コットン・クラブで初来日公演(無料ライブ)が予定されている、NY在住のシンガーソングライター、スパーラ・スワ。フォーク、ソウル、ジャズなどの影響を感じさせるシンプルなサウンドと彼女のSad eを連想させてしまう憂いに満ちた歌声が素晴らしい一枚!

Village Again  
VIA-0056  
¥1,890(税込)

2007/3/21  
Release

- 01.Love Addiction02.Sister, Sister
- 03.Spread Your Wings04.Canto Das Tres Racas
- 05.Stay With Me06.Go Slow07.I Am That
- 08.The War Within09.Too Late10.Me Love
- 11.In The Distance
- 12.You Are The One (国内ボーナストラック)



## ビューティフル・オキナワ・メロディーズ

玉栄政昭

ネーネーズのデビューアルバム表題曲「IKAWU (行かうー)」を含む、ピアノソロによる珠玉の沖縄音楽集。

リスペクトレコード  
RES-119  
¥2,500(税込)

2007/3/21  
Release

- ①安里屋ユンタ【沖縄民謡】
- ②涙そうそう【作曲: BEGIN】
- ③十九の春【沖縄民謡】
- ④童神〜天の子守唄〜【作曲: 佐原一哉】
- ⑤ちんねくじゅうし【作曲: 三田信一】
- ⑥島人ぬ宝【作曲: BEGIN】
- ⑦IKAWU (行かうー)【作曲: 玉栄政昭】
- ⑧汗水節【作曲: 喜良長包】
- ⑨花〜すべての人の心に花を〜【作曲: 喜納昌吉】
- ⑩でいんさくめ花【沖縄民謡】
- ⑪ウーマクカマデー【作曲: 三田信一】
- ⑫芭蕉布【作曲: 普久原恒真】
- ⑬肝がなさ節【作曲: 普久原恒真】
- ⑭イラヨイ月夜浪【作曲: 比嘉崇邦】
- ⑮IKAWU (行かうー)【作詞・作曲: 玉栄政昭】



## クヌアカ

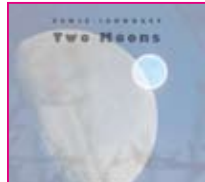
マコッサ&メガブラスト

G-STONE NEW RELEASE!! 2006年にリリースされたデビューシングル「Kunuaka/Like a rocket」がカル・クレイグ、ケニー・ラーキン、ローラン・ガルニエ等のテクノ方面でサポートされ、ジャイルス・ピーターソンのWORLDWIDE AWARD2006にノミネートされた事でクロスオーバーヒットとなったG-STONEのダブルステップ・ドライブの一枚、MAKOSSA+MEGABLAST 待望のファーストアルバム完成! CAPITOL A, KOOLKEITH等のラッパーをフューチャー!!

G-STONE/OCTAVE-LAB  
OTLCD-1091  
¥2,678(税込)

2007/3/17  
Release

- ① Intro By Ras T-Weed ② Mama Feat. 3gga ③ Kunuaka Ft. Subrinah ④ Like A Rocket Ft. Capitol A ⑤ Galaxy 82 ⑥ Porque Ft. Cleidy's Villalon ⑦ The Mating Game Ft. Bitter.Sweet ⑧ Rip It Up Ft. Ras T-Weed ⑨ Que Pasa Ft. Cleidy's Villalon ⑩ Find It (Remake) Ft. Marsmobil ⑪ Mangia Amore Ft. Marsmobil ⑫ Get It On Ft. Kool Keith ⑬ Slow Mo ⑭ Zamiang ⑮ I K.Guitar



## Tow Moons

テリエ・イースングセット

自然と対話し、そこから音を紡ぎだすアーティスト、Terje Isungset (テリエ・イースングセット) 3rdアルバム。録音に使用した楽器はノルウェーで氷から手作りで作成。

tobasis records  
WSCT-11008  
¥2,730(税込)

2007/3/29  
Release

- ① Mountain ② Black moon ③ Silent blue
- ④ Long shadow ⑤ Vista ⑥ Peak
- ⑦ Solar freeze ⑧ Moon sphere ⑨ Darkest hour
- ⑩ Silent yellow ⑪ Two moons ⑫ Serene

Terje Isungset (ice percussion, voice, ice horn)  
Per Jørgensen (voice, ice trumpet)



## マランヤ

パウリーナ・レルヒエ

フィンランド・北カレリア地方出身、vartina (ヴァルティナ) オリジナルメンバー、パウリーナ・レルヒエ来日記念盤。ボーナストラック4曲を含む全15曲収録の特別豪華盤。

tobasis records  
WSCT-11005  
¥2,500(税込)

2007/1/25  
Release

- ① Kaalina Timojaa \* / ② Jo mie viilon
- ③ Touko ④ Tuuli Taivutti ~ Lanssi\*
- ⑤ Kaisan katrilli ⑥ Tanssi poika
- ⑦ Etelämäsky ⑧ Vot I kaalina\*
- ⑨ Rapakatrilli\* ⑩ Malanja
- ⑪ Kirkonkellot II ⑫ Yön tyttö
- ⑬ Amerikan katrilli ⑭ Tulikatrilli
- ⑮ Aallot

\*印: 1stアルバム「katrilli」(日本未発売)より収録。



## オランの夜〜ライヴ、フェスティバル・レ・ゼスカル2005〜

シェバ・ジャミラ&リベルテ

世界中のワールド・ミュージック・ファンから注目を集め、今一番勢いのあるマグレブから、上質のソウル・ミュージックをライブの魂を伝えるライヴ・パフォーマンス・アルバムが登場です!

ビーンズ・レコード  
BNSCD-525  
¥2,940(税込)

2007/3/4  
Release

- ①オランの街角
- ②わたしの愛する娘
- ③怒りの酒
- ④メデハット・カクテル
- ⑤愛するあなた
- ⑥彼はわたしのだけのもの
- ⑦モロッコ・カクテル
- ⑧ハルベス



## 文明と野蛮

ハミロ・ムソット

カルリーニョス・ブラウン、カエターノ・ヴェローゾ、ジルベルト・ジル、マリア・ベターニアら数多くのブラジルの才気溢れるミュージシャン達と活動を共に、近年レユニ、ジューサとのトリオ、「IN GITE」が話題のアルゼンチン出身のハミロ・ムソットの2nd、「音楽流」周辺アーティストの独特で不思議なポップ感+後のサウンドルーツが濃厚に現れた21世紀南米最新音楽。ピリパワの倍音やパーカッションから成るオーガニックなグループが生み出すシークスは今のテクノ/ハウスの持つ響きとシンクロし、又キューバ、インディオ、ブラジルから中東のトラッドまで幅広く取り入れた音を引き立てている。子供のコーラス、ゲストのサンティアゴ・バスケスによる親指ピアノの優しい音色が作品全体にトーンを与え、不思議な浮遊間に溢れている。ゲストはアート・リンゼイ、シコ・セザルら豪華な顔ぶれ。

ビーンズ・レコード  
BNSCD-733  
¥2,625(税込)

2007/3/18  
Release

- ① RONDA ② OCHOSSI ③ GWYRA MI ④ M'BALA
- ⑤ NORDESTERADERO ⑥ OGUM
- ⑦ ASSANHADO ⑧ MANJO MA BI ⑨ MBIRA



## イマジ・ザ・サウンド -60年代フリージャズのバイオニアたち

セル・テイラー/アーチャー・シェップ/ビル・ディクソン/ポール・ブレイ

セル・テイラー、アーチャー・シェップ、ビル・ディクソン、ポール・ブレイ。60年代のフリー・ジャズ界を牽引してきた4人が魅せる壮絶な演奏が、5.1ch サウンド、デジタルリマスターで世界初DVD化!

ナウオンメディア  
NODD-00086  
¥3,990(税込)

2007/4/20  
Release

- 収録分: 90分
- 仕様: 片面2層 画面サイズ16:9 ドルビー・デジタル5.1chサラウンド/ドルビー2.0chステレオ 日本語字幕
- 監督: ロン・マン
- 制作年: 1981年
- 製作国: カナダ
- 著作権表記: (c) 2007 Sphinx Productions All rights reserved.
- URL: <http://www.nowondvd.net/products/imagine/>

\*ジャケット/仕様などは変更する場合がありますが、ご了承下さい。



## イシュマール〜機関銃の代わりにギターを〜

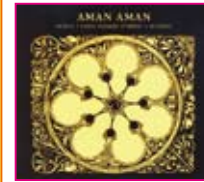
トゥーマスト

「俺は機関銃の代わりにギターを持っているのさ。」そう語るトゥーマストのリーダー、ムーサ・アグ・ケイナは元ニジェールのトゥアレグ・レジスタンス兵だった。爆撃により九死に一生を得、長年の治療の末「トゥーマスト」を結成します。バンド名はトゥアレグ語の「アイデンティティ、自治民族」に由来。ダルブカやカバカ、ジャンベが生み出すワイルドでファンキーなリズムに、ブルース・フィリピン・ソウル・ジャズが溢れるムーサのギター、従妹のアミニトゥーのブルジョアな歌や「ユーユー」の音が溢れ込んで、「防弾のビート」ともいえる望郷の憂愁を生み出しています。その音は胸に染み付く力強さを感じさせ、一度聴いたら忘れられません。「風の谷のナウシカ」のモデルにもなったというトゥアレグの衣装に身を包んだ、ムーサとアミニトゥーの2人が正面見据えるジャケット写真や中のカラーズも、芸術性の高さを感じさせます。

ビーンズ・レコード  
BNSCD-526  
¥2,940(税込)

2007/3/11  
Release

- ① Ikalane Walegh ② Tallyatidagh ③ Innulamane
- ④ Ammilana ⑤ Ezeraf ⑥ Dounia
- ⑦ Maraou Oran ⑧ Kik Ayittma ⑨ Amidinine



## 古今東西 セファルディの歌と旋律

アマン・アマン

スペイン地中海沿岸のバルシヤを拠点に、これまで3枚のアルバムを発表し広く注目を集めてきたグループ、ラム・デ・フォックの中心人物である2人、弦楽器奏者エフアン・ロベラと、女性歌手マレー・アラランダを核とした別プロジェクト、ワード・カヌー、ネイ、カヴァル、ダルブカなど、地中海周辺の伝統楽器を用いたアンサンブルによる音作りを繰り広げている。

ビーンズ・レコード  
BNSCD-8834  
¥2,940(税込)

2007/3/25  
Release

- ① Sien Drahmas Al Dia ② La Galana Y El MarJuar De Novia Galana... ③ El Rey Nimrod ④ Los Guisados De La Berenjena ⑤ DurmeBana Yücelerden Seyreden Dilber ⑥ La Adultera (Yo En Estando) ⑦ La Hermana Cautiva (De Las Altas Mares) ⑧ Los Caminos De Sirkeci ⑨ Las Compras Del RabinoAlcacik Duvar Ustü ⑩ Ansi, AnsiQue Buena Que Fue La Hora ⑪ Scalerica De Oro ⑫ Con Mucha Lesensia ⑬ Si Verias A La Rana ⑭ Las Casas De La Boda ⑮ Por Que Lloras Blanca Nina? (Fragment)Kyria Yefefiya



## A PRESENT FROM THE FUTURE

Mole Harness

イギリスの田園風景から、はてしない緑の続くスウェーデンを経由し、届いたのはまるでオーロラのような至極のアコースティックアンビエント。

umi  
umi-01  
¥2,500(税込)

2007/3/24  
Release

- ① parapet and slipway
- ② all of me forever
- ③ a present from the future
- ④ pact with the past
- ⑤ in a strange sea
- ⑥ interrogation in an unknown language
- ⑦ a pattern just out of reach
- ⑧ collapse of a labyrinth



## ザマズ

ロベルト・フォンセカ

キューバが誇る新世代ピアニスト、ロベルト・フォンセカによる傑作スピリチュアル・ラテン・ジャズ! ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブで共演した歌姫、オマール・ホルトゥオンドをはじめ、フラメンコ界の鬼才ピセンテ・アミーゴ豪華ゲストが参加! ラテン・ジャズの奥底に触れる魂の旋律を聞け!

Ward Records  
TKCW-32147  
¥2,700(税込)

2007/2/21  
Release

- ① MISA POPULAR ② TIERRA EN MANO ③ CLANDESTINO ④ LLEGO CACHAITO ⑤ ASI BAILA MI MADRE ⑥ CONGO ARABE ⑦ ZAMAZA ⑧ SUSPIRO ⑨ ISHMAEL ⑩ EL NIEJO ⑪ MIL CONGOJAS ⑫ TRISTE ALEGRIA ⑬ ZAMAZAMAZU ⑭ DIME QUE NO
- ロベルト・フォンセカ (p) / オマール・ホルトゥオンド (vo)  
オマール・ゴンザレス (b) / ジャヴィア R.ザルバ (fls)  
エミリオ・デル・モンテ (per)  
ヴィセンテ・アミーゴ (スバニッシュ・ギター)  
ラムセス・M・ロドリゲス (ds) / カチャート・ロベラ (b) 他



## パノニカ

ホレス・バーラン・トリオ

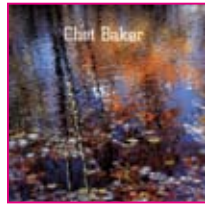
“幻”化していたピアニスト、ホレス・バーランがレジー・ジョンソン (b)、アルヴィン・クイン (ds) という勝利キミュージシャンと共にミュンヘンの名クラブ「ドミシル」で行ったライブの実況盤! 執拗に繰り返されるファンキー・ノーツと鬼のようなグルーブが素晴らしいピアノ・トリオ作品!

Ward Records  
TKCW-32152  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① NO GREATER LOVE
- ② PANNONICA
- ③ C-JAM BLUES
- ④ HI-FLY
- ⑤ WHO CARES
- ホレス・バーラン (p)  
レジー・ジョンソン (b)  
アルヴィン・クイン (ds)

# Jazz Today



## ピース

### チャット・ベイカー

チャットがバスター・ウィリアムス (b)、デヴィッド・フリードマン (vib)、ジョー・チェンバース (ds) という新主流派の面々と1982年に行ったレコーディング。洗いトーンで黙々と唄うチャットのトランペットが美しい。復刻にあたり「ピース」の未発表テイクを新たに追加収録!

Ward Records  
TKCW-32153  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① SYZYGIES (3+1=5) ② PEACE
- ③ LAMENT FOR THELONIOUS
- ④ THE SONG IS YOU ⑤ SHADOWS
- ⑥ FOR NOW
- ⑦ SYZYGIES (3+1=5) [alternate take]
- ⑧ PEACE [previously unreleased take]

チャット・ベイカー (tp) / バスター・ウィリアムス (b)  
デヴィッド・フリードマン (marimba, vib)  
ジョー・チェンバース (ds, per)



## ドリフティング

### ウォルター・ノリス

ピアノ職人ウォルター・ノリスがドイツに移住していた1970年代に渡米前のジョージ・ムラーツと二人で臨んだグルーヴィでシンプルなデュオ。ヴァーチュオゾ2人の織りなす珠玉のハーモニーとスウィングは異次元の名人芸だ! 未発表曲を追加収録しオリジナル LP仕様で復刻

Ward Records  
TKCW-32154  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① DRIFTING ② A CHILD IS BORN
- ③ NOTA CAMBIATA ④ SPACE MAKER
- ⑤ SPRING CAN REALLY HANG YOU UP THE MOST
- ⑥ ROSE WALTZ ⑦ THUMBS UP
- ⑧ MAPLE LEAF RAG
- ⑨ FALLING IN LOVE WITH LOVE [previously unreleased track]

ウォルター・ノリス (p) / ジョージ・ムラーツ (b)



## ムービーズ、トゥー

### フランコ・アンブロゼッティ

ジョン・スコフィールド、ジェリ・アレン等 NYC のビッグ・ネームを迎えて制作されたアンブロゼッティの人気アルバム「ムービーズ」。その続編が本作「ムービーズ・トゥー」。グレッグ・オズビーを加えて「スーパーマンのテーマ」や「ビーター・ガンのテーマ」をジャズ化、ウネるジョンスコがたまりません!

Ward Records  
TKCW-32155  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① MY MAN ② ANGEL EYES
- ③ THEME FROM SUPERMAN
- ④ THEME FROM PETER GUNN
- ⑤ CINDERELLA'S WALTZ ⑥ WHAT'S NEW PUSSYCAT
- ⑦ GOD BLESS THE CHILD ⑧ STEPPENWOLF

フランコ・アンブロゼッティ (flh)  
ジョン・スコフィールド (g) / グレッグ・オズビー (ss, ts)  
ジェリ・アレン (p) / マイケル・フォーマネク (b)  
ダニエル・ユメル (ds)



## ザ・フリー・ウィル

### ベニー・ウォレス

現代のテナー・タイタン、ベニー・ウォレスが、名盤録音人トミー・フラナガンを迎え取り組んだ真摯なストレート・アヘッド作品。豪放なベニーのブローと、小気味良いトミフラのピアノのコントラストがたまらない。スタンダード満載のベニーの代表作、未発表テイクを新たに3曲追加収録していよいよ復刻!

Ward Records  
TKCW-32156  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① THE FREE WILL ② SOPHISTICATED LADY
- ③ STAR EYES ④ BACK DOOR BEAUTY ⑤ WALTER
- ⑥ PASLOW ⑦ THE FREE WILL [previously unreleased take]
- ⑧ STAR EYES [previously unreleased take]
- ⑨ BACK DOOR BEAUTY [previously unreleased take]

ベニー・ウォレス (ts) / トミー・フラナガン (p)  
エディ・ゴメス (b) / ダニー・リッチモンド (ds)



## ブルース・イン・オービット

### ギル・エヴァンス・オーケストラ

1969年と1971年に行われた2度のセッションをカプリングしたギルの過渡期の作品。ブルースを基調とした曲に“ギル・マジック”をかけた刺激的なアレンジが素晴らしい。最高にクリエイティヴなミュージシャンが集り、最高にクリエイティヴなアレンジを演奏する最良のモダン・ビッグバンド!

Ward Records  
TKCW-32157  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① THOROUGHbred ② SPACE
- ③ LOVE IN THE OPEN ④ VARIATION ON THE MISERY
- ⑤ BLUES IN ORBIT ⑥ PROCLAMATION
- ⑦ GENERAL ASSEMBLY ⑧ SO LONG

ギル・エヴァンス (p, arr) Orchestra



## コモン・コウズ

### アッティラ・ゾラー

ハンガリー生まれのギタリスト、アッティラ・ゾラー。バット・メセニーの師匠で、過小評価のまま生涯を閉じた過世のギタリスト。本作はロン・カーター、ジョー・チェンバースのリズム隊を迎え、重量感溢れるスウィングを展開する本物のジャズ・ギター・アルバム!

Ward Records  
TKCW-32158  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① KAYBEE ② CSARDANOVA
- ③ COMMON CAUSE ④ TSHITAR
- ⑤ LADY LOVE ⑥ MEET

アッティラ・ゾラー (g) / ロン・カーター (b)  
ジョー・チェンバース (ds, per)



## ダーク・トゥ・ゼムセルヴズ

### セシル・テイラー

鬼才セシル・テイラーのピアノ独奏が爆発した1976年度作品。トランペット、アルト & テナーサクソにピアノ、ドラムというセッションは、フリーという枠にとらわれないセシルの自由なジャズ観が詰まった1970年代の代表作! セシル・テイラー入門編としても大推薦!

Ward Records  
TKCW-32159  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

STREAMS AND CHORUS OF SEED

セシル・テイラー (p)  
ラルフ・マリク (tp)  
デヴィッド・S・ウエア (ts)  
ジミー・ライオンズ (as)  
マーク・エドワーズ (ds)



## マカヤ・アンド・ツォチス

### マカヤ・ウンショコ

アフリカ出身のマカヤが、ドイツに渡りヨーロッパ中で大活躍していた頃、後のハインツ・ザウアー・グループのメンバー達とレコーディングした作品。ポップ・ディーゲン (p)、イスラ・エッキングャー (b)、ハインツ・ザウアー (sax) という鉄壁の4人が奏でるアフロ・グルーヴィな初リーダー作! 未発表トラックを3追加収録して世界初 CD 化!!

Ward Records  
TKCW-32160  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① ODE TO TILMAN ② TETRALOGUE ③ BRIDGES
- ④ NEGED ⑤ SUSPENSION
- ⑥ HEBEISMA [previously unreleased track]
- ⑦ SANTEC [previously unreleased track]
- ⑧ MAKAYA'S SONG [previously unreleased track]

マカヤ・ウンショコ (ds) / ハインツ・ザウアー (as, ts)  
ポップ・ディーゲン (p) / イスラ・エッキングャー (b)



## ドリームスヴィル

### ハル・ギャルパー

エンヤを支えたピアニストの一人、ハル・ギャルパー。ハルにとっては珍しいピアノ・トリオで臨んだアルバムは、「アンス・アイ・ラウド」「ドント・ブレイム・ミー」「ハイ・フライ」といったスタンダード作品集! ハルのピアノをもっと堪能したいファンに贈る最高のトリオ・アルバム!!

Ward Records  
TKCW-32161  
¥2,400(税込)

2007/3/21  
Release

- ① ONCE I LOVED ② SURREY WITH A FRINGE ON TOP
- ③ DREAMSVILLE ④ DON'T BLAME ME ⑤ HIGH FLY
- ⑥ LAMENT ⑦ SWEET PUMPKIN

ハル・ギャルパー (p)  
スティーヴ・ギルモア (b)  
ビル・グッドウィン (ds)



## ブルー・ソウツ

### ルイサ・ベイ

ピアニストのニコ・モレリに見いだされてデビューしたフランスの美人シンガー、ルイサ・ベイがクリスタルに残したアンニュイな初リーダー作品! 凛々ローズとルイサの甘く切ないヴォイスは、タイトル通りブルーなサウンドのフレンチ・ジャズ! ニコ・モレリもゲスト参加!

Influence  
XQBV-1004  
¥1,800(税込)

2007/3/21  
Release

- 01. Tell Me 02. Blue Thoughts 03. The Red Virgo
- 04. In A Sentimental Mood 05. Roxanne
- 06. Bye Bye Boy 07. My One And Only Love
- 08. Humans Fall 09. Opened To The Unknown
- 10. Magic Spell 11. Vanished Melodies 12. Song In Blue
- 13. Roxanne [version up]

ルイサ・ベイ (vo)  
アレクサンドレ・サダー (p, fender rhodes)  
ジャン＝ダニエル・ボッタ (b) / ローレン・セリエ (ds)  
ニコ・モレリ (p, M-7) 他



## リコルド

### アルフィオ・オリリオ

これぞフレンチ・ピアノ・トリオの極地! フランスで今最も旬なピアニスト、アルフィオ・オリリオがクリスタルに残したピアノ・トリオ・アルバム! ベースの新星レミーノ・ヴィロノ、フランス・ジャズ界の重鎮ドラマー、アンドレ・チュカレリの好サポートを受け、美しいハーモニー追求するオリリオの代表作! ビーズブズ作「ハウ・ディーブ・イズ・ユア・ラブ」収録!

Influence  
XQBV-1005  
¥1,800(税込)

2007/3/21  
Release

- 01. Jacome 02. Zebulon 03. Lola 04. Per Alfio
- 05. How deep is your love 06. Mauresque
- 07. Didonade 08. 12 mesures pour un cagnard

アルフィオ・オリリオ (p)  
アンドレ・セカレリ (ds)  
レミーノ・ヴィロノ (b)



## STOP THE EARTH, I WANNA TO GET OFF

### ZEB

メルティングポット、NY から発信される今一番ホットなファンク+ダブ+ハウスのエスニック・パシフィックダブハウスの怪作が登場!!! NY の人気アーティスト、ORGANIC GROOVE を主宰し、IRMA/CODEK 等からのリリース作品が DJ に大人気のイタリア系 NY 在住クリエイター、ZEB 望望のニューアルバム!!

Octave-Lab/Wonderwheel Recordings  
OTLCD-1088/WONDERCD004  
¥2,678(税込) ※国内版

2007/2/17  
Release

- ① Monia ② Revolutionary Dreams
- ③ Afro Disco ④ No Matter What They Say
- ⑤ Discs of New York ⑥ Mashallah ⑦ Felaksh
- ⑧ Baulo Patel ⑨ Para Fugir ⑩ Preto
- ⑪ My Own Boat ⑫ Skunkalicious ⑬ Opium



## SIMPLE

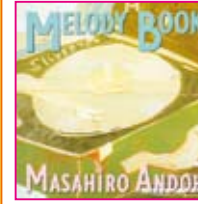
### Hakan Lidbo + Alex van Heerden

最も多作なエレクトロニック・プロデューサー Hakan Lidbo と南アフリカのジャズ・ミュージシャン、Alex van Heerden が驚愕のコラボレーション! Alex のトランペットをはじめとした演奏が、Hakan によるポスト・エレクトロニックのプロダクションによって加工/変調され、まったく新しいフォームのエレクトロニック・ジャズが誕生。ジャズの解体、不完全性の増幅、アナログとデジタルの境界のぼかし、エモーショナルな洗練、無限の微細な断片を投影した奇跡の一枚!

PERMANENT  
PERM-001  
¥2,400(税込)

2007/3/10  
Release

- ① /'gul ② homonoculus ③ drie:
- ④ op me merk ⑤ polyosspasm ⑥ simple
- ⑦ gro : n lo : k ⑧ mekonium
- ⑨ dia : lkwin praat // kabbo droom
- ⑩ slegte haardag ⑪ xanthocephalus
- ⑫ lhaken ikung ⑬ die teelidje



## MELODY BOOK

### 安藤まさひろ

安藤まさひろのファースト・ソロ・アルバム。ザ・スクエアがアルバム「S・P・O・R・T・S」をリリースした直後に発表。全てのアレンジを管絃正徳が担当。

Village Music  
VRCL-2018  
¥2,625(税込)

2007/3/21  
Release

- ① EYES OF THE DRAGON (OVERTURE)
- ② HARLEQUIN, CHARLIE & IDOL
- ③ THE BOGI CLUB ④ ROMANCE ⑤ SMART BUNNY
- ⑦ ANOTHER NIGHT ⑧ SUSPICIOUS STORY
- ⑨ EYES OF THE DRAGON

安藤まさひろ / 管絃正徳 / Darek Lane Jackson / 青山純  
シンディ / Carl Moore / Eve / まえだまさとし group



## MELODY GO ROUND

### 安藤まさひろ

安藤まさひろソロ・アルバム第2弾。当時のT-SQUARE メンバーを初め、日本を代表する豪華ゲスト・ミュージシャンが参加。

Village Music  
VRCL-2029  
¥2,625(税込)

2007/3/21  
Release

- ① Tonight's the night ② 三月のライオン
- ③ Blackeyed Susan ④ 湖の恐竜 ⑤ Mystery
- ⑥ Knock on the door, Look for happiness
- ⑦ Mr. Moon ⑧ Cool ⑨ 摩天楼の殺人者
- ⑩ Good-bye blue wind

安藤まさひろ / 山下達郎 / 則竹裕之 / 管絃正徳  
村田陽一 / 本田雅人 / 荒木敏男 / シンディ  
佐々木久美 / なるみひろ / 吉弘千鶴子 / やまきひでお  
須藤満 / 御厨裕二 / 土岐英史 / よこやまたつじ / 青山純  
伊藤こうき / STEPHANIE ANGEL



## ANDY'S

### ANDY'S

安藤まさひろソロ・プロジェクト第3弾。ANDY'S とは安藤まさひろ + Ted Namba (難波正徳) だ。ゲストミュージシャンに元 TOTO の Vocal ジョセフ・ウィリアムス、メガデスの Drums ニック・メンザ等を迎えた非常にロックテイストの強い作品。

Village Music  
VRCL-2045  
¥2,625(税込)

2007/3/21  
Release

- ① MOON OVER THE CASTLE ② SECOND CHANCE
- ③ GREEN MONSTER ④ LIKE THE WIND
- ⑤ A MAN OF THE WORLD ⑥ NOBODY
- 7. MORE THAN LOVING ⑧ FREEDOM TO WIN

安藤まさひろ / Ted Namba, Nick Menza  
やまだまさとし / Gregg Bissonette / Matt Bissonette  
Doug Bossi / Joseph Williams / Michael Landau  
Pauline Wilson / Angie Jarce / Steve Tavaglione

# ムーン・リヴァーの向こう側 愛のゆくえ

text by 末次安里 (本誌編集長)

## 2007年02月10日(土)

読みかけの小林信彦著、純文学書下ろし作品『ムーン・リヴァーの向こう側』(1995年:新潮社)を鞆に入れ、夕焼け色の中央線に揺られて吉祥寺へ。「チョコパニック vol.5」(@ Star Pine's Cafe)に出演する堀込高樹(from キリンジ)のライブを観に行く。生・高樹を観るのは昨秋のキリンジ『DOCECAGON』発売記念ツアー以来二度めだが、本日は「お兄ちゃん」だけのソロ・ライブ。冒頭のMCで「かなりアガってます(笑)」と本人も告白していたが、観る側も心地よい緊張感につつまれての稀少体験を。1曲めの〈自棄っばち オプティミスト〉から〈冬来たりなば〉〈クレゾールの魔法〉…等々、キリンジものとソロ作を織り交ぜてのサタデー・ナイト・ライブは「見逃した方は残念…」といふファン垂涎の一夜だった。帰宅後、前週に届いたTowerの新品情報メールを開いたら、こんな文字が…不滅の名曲〈チュニジアの夜〉にドラムン・ベースをかぶせた〈Drumagick / Night In Tunisia〉、堀込泰行(vo)、菊地成孔(sax)参加のシンプリー・レッドの名曲カヴァー…那須基作選曲の人気ジャズ・コンピレーション・シリーズ最新作『COLOURS OF GROOVE V: PERFECT DAY / VA』といふCDに収録されているらしい。買う、買わねば!!!



『ムーン・リヴァーの向こう側』(新潮社)

## 2007年02月12日(月)

早い死が惜まれる山村 修著、『書評家〈狐〉の読書遺産』(文春新書)を読みながら、半蔵門線で渋谷へ。ビア・カフェで一杯(三杯?)ひっかけから、19:30開演の『Brian Auger's Oblivion Express First Japan Tour 2007』(@ DUO Music Exchange)の2ndに滑り込む。最初のメンバー紹介で愛娘のサバナ(vo) & 愛息のカーマ(ds)にデレク・フラン



ク(b)を加えた編成の“家族バンド”だと知る。一瞬正直「…ん!？」と思ったがそれは杞憂に終わり、七光り的な邪推は1曲めから吹っ飛んだ。いいのだ。音楽のタイプこそ違え、もう何年も前に堪能した“ライ・クーダー父息+デイヴィッド・リンドレー父娘”のライブの模様をふと思い出して気持ちが重なる。若い3人を従えての御大、ブライアン・オーガー(68)本人は「忘却特急」ならぬ「現役超特急」といふ感じで弾きまくり、ウェス・モンゴメリーからエディ・ハリスの作品までを引っ張り出でのグルヴィーでブルージーな一夜をゲングン操る。オルガンはやっぱいいやねえ。DUOの2階(ゲスト席)はこの日初めて上がったが眺めも良好。階下では何組ものライブを体験しているが今、一番好きな場所!

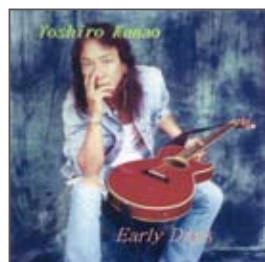
## 2007年02月18日(日)

本文750頁超の分厚い文庫、大塚英志著『サブカルチャー文学論』(朝日文庫)を携えて、京成電鉄→都営地下鉄→京浜急行→JRと乗り継ぎながら桜木町へ。今日は日没直後から赤レンガ倉庫で開演する『TAKASHI MASUZAKI presents “The Lounge vol.9”』(@ Motion Blue Yokohama)のために緊急来日したAnnekei(アンナケイ)のライブを鑑賞する。



Annekei / Annekei

デンマーク出身の彼女は現在NYに住む新感覚なシンガー・ソングライターで昨秋、自らの名前を冠した日本デビュー盤を出したばかり。ジャコパスの面影が街角で交差する詞を織り込んだ〈N.Y.C〉他、今後が愉しみな存在だが、当日はDIMENSIONの増崎孝司(g)と、坂本龍一やマイク・スターンらを迎えた最新作『ザ・ノマド・ダイアリーズ』を発売直前のクリス・ミン・ドーキー(b)とのトリオ編成。カタコトながら日本語のMCを入れたり、大ヒットチューンのカヴァーを挟んだりスペシャル版ライブ。そうそういえば月刊PLAYBOY 3月号が総力特集「女性ヴォーカルに酔う」を組んでいたが、ノラ・ジョーンズを筆頭に登場女神の面子はやや当たり前の布陣。アンナケイのステージを観るにつけ、「本誌特選の女性ヴォーカル特集を組んでみようかなあ…」



Early Days / Yoshiro Kanao

と想った。この日はもう一本、線路の反対側の野毛まで歩き、地元ロックBarの老舗「GUPPY」に駆けつけてKanao Yoshiro Unitのライブを観に行く。弾き語りの金尾義郎(vo)は最近知遇を得たじぶんと同じ歳のミドルロッカーだが、なんせ同ユニットはSakai Taizo(g)にナスノミノル(b)が合流、Shimada Yoshitaka(dr)を含む4人のROCKはハンゴ鑑賞の疲れを吹き飛ばすビートに溢れていた。

## 2007年02月24日(土)

相倉久人著『(新書で入門)ジャズの歴史』(新潮新書)と、長友健十+長田美穂共著『アグネス・ラムのいた時代』(中公新書ラクレ)の2冊を掴んで都営浅草線に乗り、西馬込駅まで地下鉄読書。寒空下の国道を川崎方面へ約10分歩いて「池上實相寺」に14:00ギリギリで到着する。今日は主宰者の磯田秀人氏(ピンポイント)から何度も誘われなが



ら「いずれネ」「次はぜひ!!」「入稿疲れで…」と数回ドタキャンしてきたお楽しみ演目、『お寺で倍音浴』に遂に参上を。別段、イマイチ興味が沸かないわけでも「そんなにエエのん!？」といふ疑念を抱いていたわけでもなく、単純に「身内の催しはいつでも観れるから」といふ東京タワー的なスタンスで今日まで不参加だったが…いやあ、クリスタル・ボウルの倍音効果は凄いの一言!! 思わず終演後、「ネエ、ネエ、次からは毎回来るから誘ってね」と主宰オジに猫なで声で約束したほど。参加者全員が座布団を枕にしてのゴ

ロ寝鑑賞を。最初の音が鳴った途端、心地よさが全身に広がって、時間に追われる神経症的世間の塵や煩わしさも前頭葉からぼろり。「2分もしないうちに肝をかく人が出ますが、あんまり五月蝋い場合は揺り起こしてください(笑)」といふ事前MCよりも早く、1分も経過しないうちに2名の肝が轟いたのは仰天。本コラム「当方見聞録」最大の収穫だったと推奨する。

## 2007年02月27日(火)

痛快な一冊、仲正昌樹著『集中講義!日本の現代思想~ポストモダンとは何だったのか』(NHKブックス)を開き、時折クスクス笑いながら花粉症に涙しつつ半蔵門線で渋谷へ。先日、安カ川大樹(b)から直々に電話を頂戴し、「これまで日本にありそうでなかったバンドを始動させたので是非観に来てほしい」との誘いを受けたので、件の精鋭バン



ド「Far East Jazz Ensemble」を観にJZ Brat(SOUND OF TOKYO)に向かう。これまた滑り込みセーフで事前の予備知識レス・ザン・ゼロだったが、メンバーが登場して驚いた! 安カ川大樹 ~ Far East Jazz Ensemble ~ 佐々木史郎(tp,flh)、松島啓之(tp)、片岡雄三(tb)、近藤和彦(as,fl)、小池修(ts,fl)、浜崎航(ts,fl)、堀秀彰(p)、安カ川大樹(b)、大坂昌彦(ds)、

こんな豪華な編成で各人のオリジナル&

斬新なアレンジでぐいぐい聴衆を引き込む。会場もほぼ満席で女性が多い。思わず生麦酒、カンパリオレンジ、ジンライム…と、杯が進んでしまった。豪快ゴリゴリと繊細ヒリヒリの音のつづれおり。独りで凄くゴージャスな一夜を堪能し、しばらく追っかけようかと思う。

## 2007年03月03日(土)

リチャード・ブローティガン著(青木日出夫:訳)『愛のゆくえ』(ハヤカワepi文庫)に引き込まれながら都営新宿線新宿三丁目のPIT INNへ。何の予備知識もなく招待されるまま、『Paulina Lerche』日本盤発売記念ライブ!の扉を開ける。彼女のCDに関しては新譜欄を参照してほしいが、アコーディオンで弾き語るパナリーナ・レルヒエ率いる5人のフィンランド組。姉妹で民俗衣装を纏い、アコギ+エレベ+パーカッション



ンのトリオを従えて歌う曲は一聴「素朴な伝統音楽の再現」かとも思われたが、曲が進むにつれて「…ん!? これは侮れないぞ」と第一印象を白紙撤回。ドブロを交えたアコギの爪弾きからはネオアコよりもトーキング・ヘッズ寄りのプレイヤーさえ感じられ、どこか日本のカレッジポップスやGSのイントロを連想させる作品にも「これはかなりいろいろなものを聞きかじった上で敢えて削ぎ落とすといふ消去法的なニューフォークなのではないか…」と考えを改めた。

Jazz Today®

発行人: 鯉沼利成 jazz today 36号  
編集人: 末次安里 表紙画: タジマヤスタカ  
デザイン: Factory Jam (岡本義憲&三村洋一)

制作: jazz today プロジェクト  
〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7-402  
専用電話: 03-3746-8760 e-mail: sue@image.ocn.ne.jp

ブログ版 編集長日誌 公開中! <http://blog.goo.ne.jp/jazztoday/>

# The live line!

## 4月の新宿ピットイン [夜の部]

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000~(1DRINK付)



4月1日(日) 洗さ知らズ オーケストラ

¥3,500

◎新宿ピットインにて3/1よりチケット(予約可)前売り開始。

4月2日(月) KAO'SI 予報

高橋香織(Vn) 梅津和時(Sax,C) 天田 透(B-FI,Fl) 古代笛)  
三好好郎(G) 納浩一(B) 仙波清彦(Ds)

4月3日(火) HIROSHI MINAMI GO THERE!

南 博(P) 竹野昌邦(Sax) 水谷浩章(B) 芳垣安洋(Ds)

4月4日(水) TANAKANDA

「I GOT RHYTHM」CD発売記念ライブ



田中信正(P)  
神田佳子(Per)

田中信正

4月5日(木) [Kokopelli] SPECIAL

さかゆき(Vo) 林 正樹(P)

ゲスト: 鳥越啓介(B) 岡部洋一(Per) 会田桃子, 香月さやか(Vn)

佐藤桃子(Va) 友納真緒(Vc)

4月6日(金) 本田珠也 ELVIN JONES TRIBUTE BAND

本田珠也(Ds) 井上博之(As) 和泉聡志(G,effect) 荒巻茂生(e-B)

4月7日(土) 白庭 潤 JAZZ ROOTS

白庭 潤(Sax)  
河合わかば(Tb)  
佐藤雄大(Key)  
永井充男(G)  
畠山芳幸(B)  
福森 康(Ds)  
小澤敏也(Per)  
入道(Vo,Harp)  
hirono(Vo)



白庭 潤

4月8日(日) D-1 ドラム選手権

開場 17:30 開演 18:00

のなか悟空、HIKO、大沼志朗、小山彰太(予定)、渋谷賢一、ほか(以上Ds)

4月9日(月) Cool Glade <Quartet> Plays Tristano-Konitz

廣木光一(Acg) 有明のぶ子(Vib) 蜂谷真紀(Vo) 吉野弘志(B)

4月10日(火) 鈴木良雄 スペシャル・トリオ First!

鈴木良雄(B) 辛島文雄(P) 横山和明(Ds)

4月11日(水) M.A.S.H.+ 1 (Berlin - Tokyo)

大沼志朗(Ds) アンドレアス ドーマン(reed) 板倉克行(P) 森 順治(Sax)

4月12日(木) 五十嵐一生 カルテット

五十嵐一生(Tp) 吉澤はじめ(P) 荒巻茂生(B) 本田珠也(Ds)

4月13日(金) ALTERED STATES

内橋和久(G,Effects) ナスノミツル(el-B) 芳垣安洋(Ds)

4月14日(土) Sunny Murray vs のなか悟空 & 人間国宝 & 川下直弘

前売: ¥3,500 当日: ¥4,000

サニー・マレー(Ds)

のなか悟空(Ds) 近藤直司(Ts)

ヒゴヒロシ(B) 川下直弘(Sax)

◎新宿ピットインにて3/1より

チケット(予約可)前売り開始。



サニー・マレー

4月15日(日) 小山彰太 ピアノ・トリオ

小山彰太(Ds) スガダイロー(P) 川村 竜(B)

■ 渡辺貞夫 クインテット 2007 ■

前売: ¥5,000 当日: ¥5,500

4月16日(月) 渡辺貞夫(As,Fl)

小野塚晃(P) 納浩一(B) 石川雅春(Ds)

ンジャセ・ニヤン(Per)



渡辺貞夫

4月17日(火) 渡辺貞夫(As,Fl)

小野塚晃(P) 納浩一(B) 石川雅春(Ds)

ンジャセ・ニヤン(Per)

◎新宿ピットイン

(店頭販売のみ、13時より)

チケットびあにて、3/3(土)より

チケット(開場時優先入場整理番号付)前売り開始。

4月18日(水) 文青 SESSION

文青(P) 石崎 忍(As) 工藤 精(B) 小松伸之(Ds)

4月19日(木) JOY HEIGHTS

前売: ¥4,000 当日: ¥4,500

中村達也(Ds) 大友良英(G) 百々和宏(G) tatsu(B)

◎新宿ピットイン(店頭販売のみ、13時より)

チケットびあにて、3/10(土)より

チケット(開場時優先入場整理番号付)前売り開始。

4月20日(金) 酒井 俊 Live!

酒井 俊(Vo) 田中 信正(P) 水谷浩章(B)

外山 明(Ds) 岡部 洋一(Per)

4月21日(土) ジョージ大塚 NIGHT

ジョージ大塚(Ds) 深沢真奈美(P) 高山夏樹(B)

## SHINJUKU PIT INN

〒160-0022

2-12-4 ACCORD BLDG. B1

Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN

☎ 03-3354-2024

http://www.pit-inn.com

4月22日(日) ダブルトリオ・キグ

■ Who's Crazy Trio

ミドリトモヒデ(As) 杉山茂生(B) 木村勝利(Ds)

■ パワードリオ

松本健一(Ts、尺八) かわいしのぶ(el-B) ツノ犬(Ds)

■ 三好"3吉" 功郎〜春の2 Days Session ■

¥3,500

4月23日(月) New Groove

三好功郎(G)

小野塚晃(key)

鶴谷智生(Ds) ほか

4月24日(火) 3吉・ボンタ Special UNIT

三好功郎(G)

村上"ボンタ" 秀一(Ds)

小野塚晃(P)

井上陽介(B)



三好功郎

4月25日(水) 坂田明 YOSHI!

¥3,500

坂田明(Sax) 鬼怒無月(G) ガカボン鈴木(B) ヤヒロトモヒロ(Per)

4月26日(木) What is HIP? + 高田みち子

¥3,500

松本恒秀(G) 野力奏一(Key) 岡沢 章(B)

渡嘉敷祐一(Ds) ゲスト: 高田みち子(Vo)

4月27日(金) Jonathan Kreisberg TRIO

前売: ¥4,000 当日: ¥4,500

ジョナサン・クライスバーグ(G) マット・ベンマン(B)

マーク・ファーバー(Ds)

◎新宿ピットインにて3/1よりチケット(予約可)前売り開始。

■ Bill Laswell presents Tokyo Rotation 2007 ■

1st 開場 19:30 開演 20:00

2nd 開場 21:30 開演 22:00(入れ替え制)

前売 ¥4,500 当日 ¥5,000

各日の通し券(1st&2nd)あり。¥8,000

4月28日(土)

ビル・ラスウェル(B)

大友良英(G)

中村達也 from LOSALIOS(Ds)

4月29日(日)

ビル・ラスウェル(B)

近藤等則(Electric Tp)

DJ Yama ほか

4月30日(月)

ビル・ラスウェル(B)

吉田達也(Ds)

坂田明(Sax) ほか

◎新宿ピットイン(店頭販売のみ、13時より)

チケットびあにて、3/10(土)より

チケット(開場時優先入場整理番号付)前売り開始。



ビル・ラスウェル

the Pit Inn  
entertainment nightly



THERE'S  
A LOT OF THINGS  
THAT GIVE YOU  
THE BLUES.